

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	360	消耗品費 360	災害発生時に住民の安否確認が迅速に行え、救助が必要な人を早く発見できるよう「無事ですタオル」を配布する。	自主防災組織の具体的な活動が模索されていた。	防災訓練時に無事ですタオルの掲出訓練が実施された自治会もありました。	災害時に無事ですタオルを掲示することにより、救出活動等の効率が確立された。	各部会毎で評価(客観的な指標も用いた)協議会役員会で最終照査してまとめを行った。	コロナ禍では実施できなかったイベント等も復活し、コミュニティ活動の活性化に寄与したものと評価。今後はSNSの活用など、新たな事業の展開に期待するところ。	「無事ですタオル」を活用した掲出訓練を実施したことで、災害時の救出活動等の効率が確立されたことを評価	危機管理課 災害対策費
地域掲示板設置事業	318	修繕料 318	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	老朽化し使用できない部分があった。	掲示板補修、マグネットシートに変更。(ザ・ライオンズ池田前)	掲示板の破損修復ができた。	掲示板を積極的に活用し、地域住民に情報を伝える。		掲示板的マグネット化により、利便性が向上したものの、一層の活用を期待。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	1,320	器具費 1,320	地域内の会館にAEDを設置(更新)し、突然の疾病や事故などの万の場合に備える。	設置されているAEDが交換時期を迎えている。	新規AEDが設置された状況。	有事の際に、いつでも使用可能な状態を維持。		事前に交換時期を把握し、維持管理すること。	本体の更新を行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
公園整備事業	826	修繕料 826	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、池田駅前公園にテーブル等を設置する。	休憩できる場所が少ない。	テーブル・ベンチを設置。	休憩したり弁当を食べたりと、沢山の方に利用されている。		次年度は日よけを設置予定。	休憩施設の設置により、憩いの場、集合の場として公園利用促進に寄与した。	みどり農政課 公園費
市民レクリエーション大会事業	400	行事報償金 400	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	コロナ禍により実施されておらず、再開してほしいとの意見が多数寄せられている状況。	次回開催に伴う問題点の抽出等を実施し次回開催に備える。	参加者が多く、全般的には好評に執り行うことができ、住民の方も多数参加いただき、地域の活性化になったと考えられる。		自治会に加入されていない方への参加促進方法を検討する必要があると思われる。	地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	125	補助金 125	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業(全戸配布)	年1回の発行、配布	地域の活動を住民に知ってもらう。		SNSを活用したタイムリーな情報発信。	伝えたい内容を簡潔に掲載でき、読みやすい。SNSは認知も必要であるため、活用する場合は紙面等で周知をし、ユーザ数の増加に努めてほしい。	広報広聴課 自治振興費
自主防災会合同防災訓練・リーダー養成支援事業	300	補助金 300	池小校区・自主防災組織連絡会の主導により14自主防災会が一同に会する防災訓練を実施し、また各防災会リーダーの養成を支援し、地域の人たちの防災意識の高揚を図ると共に他地域の人たちとの連携を図る。	コロナ禍で実施できていない状況から、頻りに起こる災害等訓練を実施することの大切さが望まれていた。	多発する災害への対応力の強化につながったと考える。	久しぶりに行った、応急手当、簡易救助器具を使用した救出訓練等を通じて実効性のある訓練が実施できた。		地域住民への災害時対応の周知強化。	池小校区・自主防災組織連絡会の主導により14自主防災会が一同に会する防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献していることを評価。	危機管理課 自治振興費
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	1,421	補助金 1,421	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・池田市綾羽2-2-1 森山ビル西2階に設置 ・専属女性事務員1名、男性会員1名で運営。	継続運営中。	全体の活動が集約・管理されている。			昨年度に引き続き開所日が減少しているものと認識。事務は適切に処理されている。	コミュニティ推進課 自治振興費
まちかどサロン開設事業	156	補助金 156	地域内のさらなるコミュニティの向上を図り、住民の体調管理や健康の向上、維持を目的として、様々な催しを開催する。	新型コロナウイルス感染防止のため中止。	コロナ明けで、全参加者に連絡したが、多くの参加者が見込めず今年度は開催を断念。	今年度は参加者見込めず中止。			事業未実施により未評価	コミュニティ推進課 自治振興費
「ちいさな絵本館」推進事業	1,305	補助金 1,305	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一層の内容の充実(蔵書・イベント・情報発信等)を図り、こどもたちの豊かな成長を応援する。	創立14年目を迎えた継続事業。	新型コロナウイルスの影響に伴い来館者が減少していたが、スタッフによる献身的な対応により復調してきており、イベントも再開し活気が戻ってきている。	幼児連れの利用に特化された。(リピーターが多い)貸出による効果。(家計・時間・絵本に接する機会増など)子育て世代のコミュニケーションの場になっている。		池田市立図書館とのすみわけを行い、ボランティアスタッフの育成しつつ、子育て世代のコミュニケーションの場として継続する。	子育て世帯のコミュニケーション促進の場として地域に定着しているものと認識。支援者の育成について、地域の理解・協力のもと人的資源の発掘に期待。	子育て支援課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

いけだ学園畑プロジェクト（MTP）等支援事業	204	補助金	204	池田中学校に設けたふれあい農園について、学生が主体となりながら運営を行う。また「平和のつどい」に参加し、児童との交流を図る。	継続事業	畑プロジェクトにおいて、地域の方がお世話に来られ、生徒とも関わる中で、親睦が図られました。さくら幼稚園児を迎え、芋掘りが出来ました。	コロナの制限がなくなり、活動が活発化しつつある。	コロナ禍前に戻すにあたり、活動を見直し、よりよいものにする。			農園の管理や「平和のつどい」の開催を通じて、地域と学校の連携・協働を深めることができた。	地域教育課 自治振興費
キッズランド支援事業	126	補助金	126	池田小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	教材の痛みや数の減少。	教材の購入により、多くの児童に利用されている。	教材を利用して、のびのびと活動している。	児童に教材を大切に利用するように指導する。			新たに遊具を購入することで、キッズランド活動の充実につながった。	地域教育課 自治振興費
計	6,961			事業提案限度額 12,372千円	次年度繰越金額 5,411千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100								コミュニティ推進課 自治振興費	
防犯カメラ新規設置事業	114	電気使用料 4 機器借上料 104 電柱等共架料 6	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	不審者等の確認ができなかった	防犯カメラを設置した	防犯カメラを設置したことで、確認することができ、犯罪の抑止力にもなっている	必要な箇所に防犯カメラを設置していきたい	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	地域懇談会の開催を定例化し、住民の声を広く集める仕組みを構築されたことを大きく評価。雪遊びについては天候による不安定さを考慮し、あらかじめ代替案を想定するなどの工夫をお願いするところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
地域掲示板設置事業	51	シルバー人材センター委託料 51	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するとともに維持・管理・運営を行う。	継続事業：ガラス張りにした掲示板の清掃	シルバー人材センターに年2回清掃を委託	清掃することによって清潔さが保たれ見やすくなった	掲示板の管理について地域住民と考えていきたい		清掃を行い適切に管理いただいております。広報に有効な手段になっているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費	
AED管理事業	329	消耗品費 10 器具費 319	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体の更新を行うとともに、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域内会館に設置したAEDの本体と消耗品の使用期限が切れる	使用期限が切れる渋谷会館のAED本体と南畑会館のパッドを交換した	安心したAED本体とパッドを使用することができる	地域住民へAED講習会などへの参加の呼びかけ		本体の更新及び消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
公園整備事業	832	修繕料 832	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、きのもと公園に遊具を設置する。	きのもと公園を改修することに伴い、遊具が足りない	きのもと公園にスプリング遊具を設置した	子どもが喜んで遊んでいる	公園に必要な遊具があれば支援していきたい		公園のリニューアルに合わせて、市とコミュニティが協力して遊具を増設した事により、子どもの公園利用が増える事が期待できる。	みどり農政課 公園費	
秦野小学校備品整備事業	1,348	校用器具費1,128 補助金 220	子どもたちが安全に学校生活を送ることができるよう備品の整備を行う。	小学校で使用するテントが足りない椅子が重いこと、老朽化している体育館が暑い	小学校へテントを3張、椅子を100脚支援 スポットクーラー整備	テントは運動会など屋外で使用する際活躍している軽量化した椅子は出し入れしやすく使用しやすい真夏、涼しく過ごせた	小学校と連携をとり、過ごしやすい環境へ支援したい		快適に利用してもらおうための環境整備を実施することにより、安全に活動を行うことが可能となった。	教育総務課 学校管理費/自治振興費	
市民レクリエーション大会事業	400	行事報償金 400	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	支援することにより、スムーズな開催ができた。	地域住民の大きなイベントになっている。子ども会の活性化に寄与している。	自治会、子ども会入会者の減少は止まらない。今後とも地域住民の参加率向上を図り、自治会、子ども会等の発展につなげていきたい。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回の「秦野まちづくりだより」の発行	年3回の発行をすることができた。	「お聞かせください！みなさまのこえ」では、地域内での要望を聞くことができ、「お伝えします！みなさまの活動」では、地域内で活動されている団体さんが協議会の事業に参加協力いただけることとなった	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動及び行事参加者増加に努めたい。		カラフルな仕上がりがりて、写真やイラストを多く使用し読みやすい。イベント等の報告を写真を使用することで、伝わりやすい紙面構成ができている。	広報広聴課 自治振興費	
合同防災訓練事業	200	補助金 200	小学校児童と地域住民が合同で防災訓練を行い、防災意識を高めるとともに地域住民と交流を図る。	秦野小学校3年生、4年生児童、保護者、南畑公園自主防災会合同防災訓練を支援する	6月に秦野小学校・PTA・南畑公園自主防災会合同訓練を実施し、12月に地域での防災訓練を実施した。	防災訓練を実施したことにより、地域の安全について考えることができた。	色々な体験ができるよう、防災訓練の内容を検討する		小学生と地域住民が合同で防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献していることを評価。	危機管理課 自治振興費	
校区盆踊り大会事業	250	補助金 250	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。コミュニティ意識の高揚をはかる為に積極的に支援をする。	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。	備品を備え、スポーツ振興会・子ども会への支援が充実したと思われる。	踊りや太鼓の継承、参加する側から開催する側への転換期の支援など		参加人数も増加しているとのことで、地域振興、地元との交流の場づくりに寄与しているものと考えられる。	シティプロモーション課 自治振興費	
地域イベント活性推進事業	950	補助金 950	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していく。	あおぞらdeはたのフェスタ、雪あそび	あおぞらdeはたのフェスタは地域の方々が参加・来場し盛況であった。ふわふわゴリラも好評。雪遊びは今年度も雪不足のため実施せず。	あおぞらdeはたのフェスタを開催することで、地域住民同士の顔合わせができ、親睦をはかることができた。	もっと地域住民主体でできるようなことを考えたい。雪については積雪量等課題があるものの、引き続き検討を進めて頂きたい。		地域住民同士のつながりづくりや子供たちの楽しめる場となったものと考えられる。雪については積雪量等課題があるものの、引き続き検討を進めて頂きたい。	シティプロモーション課 自治振興費	
はたのひろば兼事務所管理運営事業	990	補助金 990	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、管理運営を行う。	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	平日は13時～17時開所。毎月、ミニイベントを行っている。	会員の会議・打ち合わせ以外に立ち寄る方もさらに増えている。はたのひろばを利用したミニイベントの開催も盛況	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民・地域団体の利用も促進。		週5の開所を継続し、コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

地域ギャラリー維持管理事業	85	補助金	85	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1か月ごとに作品を入れ替えている。破損しているガラスがある	1か月ごとに作品の入れ替えを継続ガラスを交換した	季節感のある作品も多く、足を留めて見ているかたもいる。ガラス交換したことでそこから割れる心配がなくなった。	作品集はまだまだ必要を感じている。いろいろな作品を掲示・展示していきたい。		作品の展示を通じて、地域のつながりが生まれているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域活動備品整備事業	208	補助金	208	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していくための備品等を整備する。	地域活動をするにあたって、備品が充実していなかった	地域活動に必要な備品の整備：フローレンライト、扇風機、ベルト、電球など	あおぞらdeはたのフェスタや地域の盆踊りなどで役に立っている。	地域活動に必要な備品の整備をしていきたい		地域活動の円滑な運営に寄与。今後も適切な備品管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
健康啓発講座開催事業	50	補助金	50	運動による認知予防講座及び正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	継続事業：地域住民の健康増進に寄与する講座を開催	健康講座：7月に楽器を手作りし音楽に合わせて体操する講座を行った	手作業と体操をすることで健康増進に寄与した	定期開催や参加しやすい環境づくりなど幅広い年齢層に参加いただけるよう企画していきたい		認知症は、予防と早期発見が重要であるため、不安になったときの相談先等についても講座で取り上げていただきたい。	地域支援課 自治振興費
農業体験学習事業	500	補助金	500	地域の子どもたちに農業体験を通じて、地域交流を深めるとともに、食べ物の大切さ、作り育てる喜びを体験し、農業への理解を深める。	継続事業：貸農園を使い畑で作物を作る過程を学習している	地域で貸農園を使い、玉ねぎを収穫し、土地を耕しサツマイモを植えて育て、収穫した秋には玉ねぎを植えた。	普段、土を触ることが少ない子供たちに、育てる楽しみ、作物の出来方、大変さが伝わった。	できるだけ多くの地域住民に参加してもらうよう啓蒙活動をしたい		農業体験を通じて、地域での交流を広げることが出来た。	みどり農政課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	100	補助金	100	地域と学校と一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域にしていこう。	毎年渋谷中学校・地域団体と連携して行っている。	渋谷中学校の生徒が花を育てるための、花苗・土などを支援した。南畑公園で花を植えるため支援。	中学校内と南畑公園が花いっぱいになった	今後も継続的に支援し、地域に還元して花があふれる街を目指していきたい。		緑化事業の継続と、地域とのふれあいの場を更に広げることが出来た。	みどり農政課 自治振興費
自然学習講習会・昆虫育成事業	155	補助金	155	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	平成22年度から継続事業。カブト虫養育場で育った幼虫を掘り出し飼育、腐葉土の入替用意。	カブト虫育成の講習会、養育場へ腐葉土の入替。	養育場の土の入替をすることにより、自然のかぶと虫の産卵場に最適となる	かぶと虫の養育を通じて今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。		飼育体験や昆虫とのふれあいを通じて、貴重な自然学習の場を設けることが出来た。	みどり農政課 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具、消耗品の不足	必要な備品を整備した。	必要な備品を整備したことにより子供たちが快適に過ごしている。	ある程度の備品整備が完了したので今年度で一旦終了。今後必要なものがあれば支援していきたい		新たな教材等を購入することで、キッズランド活動の充実につながった。	地域教育課 自治振興費
計	7,092			事業提案限度額	11,770千円	次年度繰越金額	4,678千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	所管課 科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。						コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	251	電気使用料 10 機器借上料 239 電柱等共架料 2	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	北豊島地域において、細街路での路上防犯の被害を未然防止を図る。	防犯カメラ設置箇所は2カ所ある（北豊島地区・荘園地区）	防犯カメラを設置した事により、未然に犯罪の防止並びに犯罪の解決に寄与する。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	各種イベントも賑わいを取り戻し、地域住民のコミュニティの活性化に寄与されたものと評価。一方で、未実施となった事業については、Withコロナ時代の活動としてあらためて見直しを図りながら、新たな展開に期待するところ。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む 危機管理課 自治振興費
地域行事活動促進事業	75	行事報償金 75	地域行事（校区盆踊り大会・校区秋祭り等）に必要な備品等の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	日本の伝統行事のまつり、盆おどり等住民の情報交換が希薄になっている昨今 住民の対話活性化を図るべきである。又 地域活性化のために何か協力することがあればと思っていた。	まつり 盆踊り等 人口の減少、高齢化に伴い資金面で取りやめる所もあったが少額ではあるが行事報償金を出すことで住民対話も高まり少しずつであるが活気ある行事が行われるようになった。	行事報償金は少額ではあるが各地域とも行事維持資金として役立っている。地域の行事に参加者も増え、明るく より良い街づくりができると思う。	地域 場所により条件の違う状態にあると思うのでそれぞれの行事報償金支払先の意見等聞きより良い方向に配慮する必要があると感じる。	地域内での対話も行われることで、地域活性化・交流の場づくりのための各種イベントが実施されたものと考えられる。	シニアプロモーション課 自治振興費
地域掲示板設置事業	323	修繕料 323	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	豊島北1丁目地区に以前から地元自治会より地域広報板として設置の要望があった。	掲示板が新設により地域の広報が掲示され、喜ばれている。広報を見て、イベントに参加したと声を聴くようになった。	閲覧者も多く効果大と思われる。	掲示板の掲示物等今後も管理をしていきたい。	掲示板の新設によりイベント参加者の増加など広報効果があつたものと認識。今後適切な管理維持をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	43	消耗品費 43	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	豊島北会館の部品使用期限が切れるので交換を要した。緊急使用時誤動作がないように本体及び部品使用期限が来た部品の交換必要性があった。	利用者の多い、豊島北会館に設置したAED部品 パッド及びバッテリー交換した事によって緊急時使用の安心度が増した。	設置場所を知り、現物を目にする事が出来るようになり安心感がある。	実際に使用すると不安が残るので使い方の講習等も定期的にする必要がある。	消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	57	電気使用料 12 修繕料 45	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	道路照明は、路狭小、道路交通、防犯上問題がある場所の安全を解消を図る必要がある。	通学路や交通量の多い狭い道路の照明が不十分であると思われるところの交通安全を図り、今年度は豊島南に1基と市費用で1基設置しました。	道路照明を設置ならびに灯器の新設並びにリニューアルにより、夜間でも明るく安心して通行でき交通安全が図れた。	狭い道路で道路照明の設置が必要であるため、年次ごとに設置を進めていく。	街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業	1,300	修繕料 1,300	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	校区内周辺道路において、十分な歩車分離が出来ている道路が少なく、また通過交通車両が多いため、通学時の児童の交通安全確保に問題があった。	校区内周辺道路で、通学路の指定を受けている道路の路側にグリーン舗装している。今年度は、経年劣化していた北小南門（市予算）から真面橋の間をグリーン舗装した。	校区内周辺通学路の路側にグリーン舗装することで、通過車両の注意を喚起することができた。	校区内周辺道路における、登下校時の生徒の安全確保と、高齢化社会・ハンディキャップをもった人々の対策として安全策、交差点表示、点字ブロック等の設置等も要望していきたい。	グリーンベルトの設置により、通行の安全性が向上した。	土木管理課 道路維持費
防犯灯強化事業	297	修繕料 297	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の広場を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	ソーラー・LED照明灯設置済の、第1号機（豊島野公園）、第2号機（荘園1丁目第2公園）は、治安・災害時の避難場所として、活動中ですが、はや10年が経過。蓄電池も（5年持ては良い方ではあるが）寿命をはるかに超過しており交換が必要である為、実施を申請。予定…（R5/7月） 場所 第1,2号機（2基） 予算…29.7万円	ソーラー街路灯の効果は大きく、治安、災害時の避難場所としての効果が従来同様、安心して期待できる。ソーラー・LED照明灯の蓄電池交換完了。＜対象2箇所＞ 1）平成24年7月実施「豊島野公園内」1基 2）平成25年8月実施「荘園1丁目第2公園内」1基 結果…（7/11）完了	・設置後の年数から見て、いつ切れてもおかしくない状態にある。 ・早目の交換が必要です。 ・コミュニティ協議会としての導入取組みPR活動 看板設置、広報誌での紹介 ・現状日に対しては、明るくなって安心です！とのお礼の言葉をいただく。	・設置場所に対する近隣住民とのトラブル防止の為十分説明をする。 ・定期的にチェックを実施し、状況確認を定期化する。 ・初期不良等の確認を実施。	・公園内の防犯対策の拡充と、地域の防犯に対する意識向上が見られる。 ・ソーラー照明灯で災害時の停電時でも一時的に使用でき安心である。	みどり農政課 公園費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	野外レクリエーションでもあり、コロナ禍になった事から感染対策を充分に考慮しプログラムも密にならないように注意して実施しました。	令和5年10月22日(日)10時～12時 北豊島小学校グラウンドで実施、多くの方々の参加で幅広い年齢層の方々が楽しまれた様子でした。	多くの地域住民が親睦を深め、健康増進とコミュニティの輪を広げられました。	参加賞品の出し方について考えていく必要があります。	地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	350	補助金 350	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	協議会の活動内容を地域住民に告知するための広報誌として年間3回、7,500部を作成して各戸に配布。	コロナウイルス感染症の収束傾向に伴い、地域コミュニティの活動も活発さを取り戻してきた。コミュニティ紙のさらなる発信が期待されている。	協議会メンバーの間では活動は活発であるが、協議会の活動が一般住民に浸透・認知されているとは言えない。	①希望される事業についてアンケート調査を実施したい。 ②編集開始から発行までの期間が長すぎ、広報誌掲載の記事内容に新鮮さが欠ける。 ③広報誌の編集委員会を頻繁に開催し、問題点を編集委員全体で共有したい。	カラフルな仕上がりで、写真やイラストを多く使用し見やすい。編集開始から発行までの作業工程を見直し、新鮮さがある紙面に期待する。	広報広聴課 自治振興費
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人たちが集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、令和6年1月1日の石川県の能登半島地震を始め、将来予想される「東南海地震、地球温暖化に伴う異常気象による、局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	令和5年9月7日に北豊島地域の幼児から高齢者に至るまでの（41名の参加）で全世代にわたる防災講習を実施した。	幼児から高齢者にわたり、防災に対する認識が深まった。	防災は、地震・大雨・火災等と様々なものがあり、それぞれに沿った防災講習を行っていきたい。	災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価。	危機管理課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

避難行動ウォーキング事業	17	補助金	17	避難場所や移動ルート、移動方法の確認を行い、日頃からの安全への意識を高める。	【重点1】活動拠点、中心となる人物の選定をしました。 1-1…今回の対象地区は、「荘園」「豊島南」「住吉」地区に限定。 1-2…「リーダー」を高校、中学生!! 「サブリーダー」を小学生とする。 ※災害時の学生の判断力/活動力と「幼児/高齢者」を引率する能力に期待、任せました。但し安全確保には、保護者をお願いしました。 【重点2】集合先は「北豊島小学校防災備品倉庫」見学とする。 ※最終的に「ルート図」「問題点メモ」を提出願いました。 結果…R6/3/10完了 参加者…34名 費用…12.2万円	①「第1回目の開催に、皆様のご協力頂いた事に深く感謝いたします。 ②身近な災害への対応力を付け防災意識充実の目的は、果たせたと思います。 ③今回の実践で「ルートでの危険箇所・物・状況判明」「防災倉庫保管品」を確認できたことは、大きな収穫です。	・避難訓練をも兼ねておりますが、事前準備不足は歪めません。反省!! ・年少の子供さんから中学生まで、幅広い事業の立案が不可欠。	中学生・高校生をリーダー、小学生をサブリーダーとして確立し、災害時の学生の判断力や活動力及び幼児・高齢者を引率する能力に期待し、訓練できたことは、非常に効率的・効果的であり今後役に立つものであることを大きく評価	危機管理課 自治振興費	
きたてしまプラザ活用事業	2,486	補助金	2,486	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教養教室、子育て支援活動、中学生学力向上のために「池田ふくまるはばたき塾」開講支援等を行うとともに高齢者等憩いの場としての談話室の使用活動を行う。	きたてしまプラザを地域住民相互の交流拠点として、住民対象の文化教養教室 子供支援活動が出来た。池田ふくまるはばたき塾の開講支援 又談話室も完成し、本格的に高齢者等憩いの場として有効活用していきたい。	当協議会の拠点として、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきております。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。 高齢者、地域の方々などなくても気軽に利用できるプラザにしたいと考えております。	コロナ禍の影響も小さくなり、様々な年代の方を対象とした教室等を開講し利用者が増加傾向であるため、地域住民の交流の機会を創出できているものと認識。	総務課 自治振興費	
きたてしまプラザまつり事業	50	補助金	50	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	北豊島地域コミュニティ推進協議会活動状況PRの場として新型コロナも5類になったことから感染対策を十分に注意して実施しました。	多くの人々の参加で、住民間のコミュニケーションが図られました。	地域全体に伝わるPR方法を考えていきたい。	多くの人が来場され好評を受けたとのことと地域のお祭りとして引き続きコミュニティの創出に動めていただきたい。地域全体への波及については地域小学校へのPR依頼やSNSの活用などを通じて引き続き進めていきたい。	シティプロモーション課 自治振興費	
地域医療講座開講事業	10	補助金	10	高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	医療関係者による医療講座を受ける機会が少ない中、地域内で地域住民に役に立つ医療関係の講座を定期的に開講予定。	残念ながら今回はコロナ禍の影響で講師との開講準備できなかった。	事前準備を万全にしていきたい。（講師の確保 参加者増員方法）	事業未実施により未評価	地域支援課 自治振興費	
子育て支援事業	568	補助金	568	あそびの広場（年間48回）を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	コロナウイルス感染対策の為、中止していたランチタイム、おやつタイムを再開し、あそびの広場は、毎週木曜日に予約制で行い組数の制限は設けず、午前の部（10時～12時）ランチタイム（12時～13時）午後の部（13時～15時）に実施し、ベビーマッサージは令和4年度に引き続き毎月第2木曜日（10時半～11時半）に実施します。	ベビーマッサージの希望者がなく、開催できない月がありました。また、利用者が減りましたが、クリスマス会や英語リトミックのイベントには参加者が多く集まりました。	子育て中のお母さん達の情報交換の場所だけでなく、子育ての悩みを気軽に話せる場になっていました。	ベビーマッサージを中止し、子育て中のお母さん方が、興味のある親子英語リトミックやクリスマス会のイベントを充実させて実施することにより、ロケットキッズの新規利用者を増やしていきたい。	親子の交流の場として地域に定着しているものと認識。地域の社会資源を発掘・活用しながら、新規の方の参加を促すような取組を期待。	子育て支援課 自治振興費
環境美化ウォーキング事業	34	補助金	34	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域を分割しゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、「ゴミの発生場所と分析」を実施！ゴミ撲滅美化活動と健康・地域交流を行う。地域住民と協力、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。<コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第。> <計画>開催2回/年を予定（R5/9、R6/3）、場所…「天神1,2丁目」。予算…3.4万円	本年度の「環境美化ウォーキング事業」は1回の実施となる。 実施日…第1回目9月は<中止>、第2回目R5/12/10は「天神1,2丁目」にて実施。計画変更はコロナ対策が最大の要因である。 <実施要領> コロナウイルス対策をした上で実施。<消毒・検温・手袋（ビニール手）、不織布マスク、ソーシャルディスタンス>を徹底。約50名の参加（コロナ対応の為人数制限）。「実施時の目標」…活動の効果確認！ウォーキングしながらゴミを拾い、環境にやさしい街づくりを目指しゴミの削減に取り組みました。 結果…R5/12/10完了 参加者…45名 費用…24.6千円	ウォーキングにより、・気持ち・見目の変化・四季の変化、地域の変化を感じる。 ☆コロナ対策はそれなりに実行し十分な効果は得られました。 ・小学生、中学生の参加により継続性が期待出来たのではと感じました。	・コロナ対応に適した事業活動を計画致します。 ・子供～高齢者まで、安全で安心な活動を立案し継続を心がけます。	美化活動・健康・地域交流等を融合させた効果的な活動として評価。 感染症対策も徹底した上で実施されたものと認識。	環境政策課 自治振興費
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	ウイルスの影響時にも対応し、楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいエコクッキングスタイルの講習会を開催する。	<キッチンからできる地球への思いやり>をテーマに、毎日の食材調達から料理、そして楽しい食事、後片付けまで環境に配慮する（エコロジー）だけでなく、「アレンジレシピで効率よく使いこなし、色々な工夫で無駄をなくしましょう」 <季節毎テーマ（ワンプレートクッキング）を立案!! <コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第。>にて実施の可否決定 予定…1回/年（R5/8or R6/2月） 予算…0.0千円	本年度の【コロナ拡散状況を見て】募集時にコロナへの恐怖心を脱ぐへず参加辞退>が相次ぎ、やむおえず本年は見送りとなりました。 結果…中止 費用…0.0千円	「一貫したエコロジー」を身をもって実践が出来なかったのは残念です。	日頃何気なくやっていることであるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらう。季節感を考慮してもらう。『継続が重要課題』である。	事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

公園整備事業	140 補助金 140	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、豊島北2丁目公園に自動灌水装置を設置する。	年間の気候変動に対する健康管理（熱中症対策、冬季対策）の改善と「2回/年の花の植替え」への保守管理に必要不可欠な設備であり令和元年度設置分（第1回、2回）の効果より、コロナウイルス対策を考慮し追加致しました。 予定…R5/6月 予算…14.8千円	<自動灌水システム工事>AG100V電源式コントローラー+埋設型電磁弁+他…2系列にて分離散水とする。健康管理・雨対策・不在時の対応。節水対策にも効果が大幅に見込めました。 結果…R5/8/7完了 費用…138.6千円	・公園の環境整備により、樹木、花壇への環境改善。 ・定期的な散水と定量（節水）への活動PR ・現状品での実績を強調PR 看板設置、広報誌での紹介 ・コミュニティ推進協議会としての導入取組みPR活動に貢献することを期待。	・設置場所に対する近隣住民とのトラブル防止の為十分説明をする。 ・定期的にチェックを実施し、状況確認を定期化する。 ・初期不良等の確認を実施。			自動灌水装置設置により、花壇への水やり作業の効率化を図ることができた。また、地域の公園に対する美化の意識が高まった。	みどり農政課 自治振興費
北豊島地域花いっぱい整備事業	110 補助金 110	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。また北小生が育てた花を地域の施設に配布し、地域全体に潤いをもたらす。	①豊島北二丁目公園にて「地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供」し、四季の変化を体感してもらう。継続する事が重要。地球温暖化の影響による暑さ対策にも効果あり。 結果…2回/年（R5/6, R5/11） 予算…5.0万円 ②北小の生徒さんが育てた花を北小構内及び地域施設（共同利用施設高齢者介護施設等）に配布し地域全体に潤いを持たせたい。 結果…2回/年（R5/10, R6/2） 予算…6.0万円	①<コロナ対策にて、防止可と判断（例、検温・マスク・消毒。他）>し実施 実施場所…豊島北二丁目公園 園芸高校の先生/生徒さんの指導を受け、花壇に季節にあった草花を植替え、いやしを与え楽しんで頂く為実施。市役所の関係者も参加頂く。 結果…2回/年（6/18, 11/25）完了 費用…50.0千円 ②10/26（花植え）、12/13（花 出陣式）の2度作業/年北小3年生の皆さんと北小構内及び地域施設（共同利用施設、高齢者介護施設等）に苗を植え配布しました。春には街に花を咲かせてくれる事を期待します。 結果…2回/年（10/26, 12/13）完了 費用…60.0千円	地域・季節における美化活動への意識付けをPR。花の植え方・育て方等の実地講習を受け、花を可愛がる心に潤いを与え、子供が安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれております。花泥棒も多少減り、徐々に効果が出てきた模様です。	①子供～高齢者まで、安心して和やかに過ごせる場所の確保。 年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの一層の協力を頂く必要があります。 ②子供～高齢者まで、安心して和やかに過ごせる環境の確保。近隣の方の積極参加を頂ける様、なお一層北小の皆さんと努力致します。 北小の生徒さんが育てた花を北小構内及び地域施設にもっと増やしたい。		地域住民と園芸高校との交流が深まっていくことで、美化活動への意識向上と共に憩いの場を提供出来ている。	みどり農政課 自治振興費	
計	6,421	事業提案限度額	8,344千円	次年度繰越金額	1,923千円					

くれば地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
	説明											
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費	
青バト隊パトロール活動事業	411	修繕料 63 自動車重量税 5 保険料 38 補助金 305	青バト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青バトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青バト駐車場を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができています。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることで、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	安全で安心なまちづくりに寄与いただいたものと評価。事業実施に当たっては、あらかじめ事業計画と役割分担を明確にし、計画的な予算執行と会員間の負担の偏りが無いようお願いするところ。	今後も引き続きパトロール活動の強化に努めていただきたい	危機管理課 一般管理費 総務課 財産管理費	
地域内会館設備改修事業	572	修繕料 572	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。(姫室・室町会館)	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。				コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費	
AED管理事業	10	消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるように維持管理を行う。	地域内の会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	消耗品の交換をしたことで、安心できるようになった。	もしもの時の備えとして、大いに歓迎されている。	他の共同利用施設も設置を検討していきたい。				健康増進課 保健衛生総務費	
街路灯強化事業	17	電気使用料 17	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができるとの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。				街路灯を適切に維持管理することで、夜道の防犯対策に寄与することができた。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業①	1,460	修繕料 1,460	歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、安全性が向上した。	カーブミラーの設置により、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所が点在しているため、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。				道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	291	校用器具費 291	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れ「全国大会金賞」を受賞した。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。				使用可能な楽器の一層の充実により、児童の演奏技術の向上に繋がった。	教育総務課 学校管理費
地域内学校園設備支援事業	443	修繕料 196 補助金 247	地域内の学校園において開催される各種地域イベントにて必要となる設備・備品の整備を行う。	地域内の学校園においてイベントや行事などで必要な備品が不足していた。	必要な備品の整備を行う。	学校関係者だけでなくPTAや地域の人にとって利便性が増した。	安心して教育が受けられる環境を整えていきたい。				各種行事に必要な備品を整備することにより、学校関係者だけでなく地域の人にとっての利便性が増した。	教育総務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化できるよう努める。				地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	519	補助金 519	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解してもらっている。	コロナ禍ではあったが、1回発行できた。	地域コミュニティの事業を報告できた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。				落ち着いた色と写真やイラストを使用し読みやすい紙面となっている。限られた紙面であるが、協議会への参加促進についてはどのようなことを行っているか等を紙面で周知しても良いと思う。	広報広聴課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	128	補助金 128	近年多発する災害等に備えるため備品を購入する。	災害等に備え、地域住民の安全対策を行いたい。	災害対策として給水土嚢を備えた。	もしもの時に対応できるように備えが出来、地域住民に少しでも安心してもらえた。	災害時に必要な部品をそろえていきたい。				事業未実施により未評価	危機管理課 自治振興費
合同防災訓練事業	183	補助金 183	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	呉服小学校の校庭で、合同防災訓練(8自治会)を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越える事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。				災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費
くれば祭り開催事業	600	補助金 600	くれば祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人の繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれば地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的にPTAと合同で祭りを開催する。	呉服小学校において、くれば校区の住民である子供からお年寄りまで楽しめるイベントを開催した。地元の参加団体を募集し、店舗とステージ以外にも無料の子供用遊具を設置。	くれば小学校区の子供から大人まで参加してもらい大盛況だった。ステージや遊具は無料、店舗は格安の値段だったので大好評だった。またワークショップも開催 新しい試みで大盛況だった。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。				新しい試みを取り入れながらイベントの開催に工夫を凝らしていただいている。今後もブラッシュアップしながらイベント実施を通したコミュニティの創出をお願いしたい。	シティプロモーション課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	2,509	補助金	2,509	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、「WiFiの導入」など地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。	シルバー人材センターを活用して、管理人不在時の館内の安全確保にも努めていただいている。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	230	補助金	230	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。（室町会館）	地域内にある会館施設の備品が老朽化していて安全面で不安がある。	共同利用施設の老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。	事業未実施により未評価	コミュニティ推進課 自治振興費
リユース活動事業	60	補助金	60	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いてしまっているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする	とても好評で、来年もぜひ開いてほしいという言葉を頂いた。	地域分権の子育て世代への認知度が上がった。	どうしても衣類が余ってしまうので余った分を施設等へ寄付したい。	特に子育て世代に有効なリユース事業である。対象世代のコミュニティ形成にも有効と考える。	環境政策課 自治振興費
道路安全対策事業②	330	補助金	330	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	コロナ渦のため実施できなかった。		地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。	事業未実施により未評価	土木管理課 自治振興費
地域植樹事業	80	補助金	80	地域の景観を保つため、歩道の木が枯れて無くなってしまっているところに植樹を行う。	地域の景観を保つため、歩道の木が枯れて無くなってしまっているところに植樹を行う。	少しだが町の緑が増えた	地域の住民に喜ばれ大いに歓迎されている。	今後も緑を増やしていきたい。	植樹を行うことで、地域の景観に寄与することができた。	土木管理課 自治振興費
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	140	補助金	140	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校と一緒に花を育てる活動を支援する。満寿美町内にあるブランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域と一緒に花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。地元の方々に好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。	花を育てる活動で感性を育み、且つ地域と学校との更なる連携強化が期待できる。	みどり農政課 自治振興費
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金	90	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。	事業未実施により未評価	社会教育課 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。要望が市民からあった。	コロナ渦のため、実施出来なかった。		今後も支援していく。	事業未実施により未評価	地域教育課 自治振興費
計	8,553			事業提案限度額	9,197千円	次年度繰越金額	644千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	615	電気使用料 24 機器借上料 588 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点等の一部が死角になり、安全面に難あり、及び、不審者/犯罪者の逃走経路となるのでは等の指摘があり、継続を要望。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目(者)による長期休暇(夏休み/大型連休)等の不在期間中の見守りが可能となる為、継続とする。	設置箇所が増えたことによる各犯罪抑止効果ありと判断します。…継続	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	事業を通して安全で安心なまちづくりに貢献されているものと評価。運営面においても、部会制がしっかりと機能しており一部に負担が集中することなく、急な欠員にも協力して事業執行できる体制が構築されていると認識。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	400	行事報償金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	納涼大会等を実施する地域団体が年々、予算等高騰し、運営が苦しくなってきた。	電気設備設置及び活動運営を支援して、活動に対して応援した。	電気設備設置等に費やしていた費用が軽減する事ができ、他に援助することが出来た。	年々、種々雑多なものが値上りし、もう少し援助を増やすべきと思う。		地域イベントを支援することで地域の交流が活性化したものと考える。値上げ等に対しては今後も情勢を注視しつつ検討いただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	1,719	修繕料 142 庁用器具費1,455 補助金 122	地域内会館(秦野会館)の備品整備を行い、利便性を向上させる。	老朽化が顕著な備品や設備を改善する。高齢者に優しい椅子等軽量化をはかる。	1 保育室の畳表替え、学習室のカーテン取り替えた。 2 会議室の椅子や小会議室の机をキャスター付きの軽量備品に替えた。 3 トイレの窓に透明ガラスを覆うフィルムを貼り付けた。 4 文庫棚の横に(階段)がある為薄暗い、棚上に照明器具設置した。目的達成出来た。	1 見栄えがよくなった。 2 高齢者でも使いやすくなった。 3 他の方から見えなくなり、目的達成。 4 明るくなり目的達成。	秦野会館が今後も使用出来ることを願う。		利用者のニーズに応じた設備改修が出来たものと評価。会館利用者の増加に寄与することに期待。	コミュニティ推進課 地域集会所管理費
公園整備事業①	631	修繕料 631	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、石橋公園の車止め改修を行う。	石橋公園北東側の車止めがひとりでは操作がしにくく、車両を進入する際は数人の人手が必要であった。	ひとりでは車止めを操作できるようになった。	石橋公園内に車両を進入する際、ひとりではできるようになった。	石橋公園で納涼大会等イベントの準備で、車両の進入が容易になった。		車両の進入が容易となり、イベントの準備が円滑に行えるなど、公園の利便性が向上した。	みどり農政課 公園費
公園整備事業②	827	修繕料 827	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、井口堂公園にテーブル及びベンチを設置する。	井口堂公園には古墳があり、石橋駅からの旧街道のハイキングコースの途中で休憩場所がなく、不便だったので人々は通り過ぎていた。	ベンチと椅子が設置され、休憩する人々が増え憩いの場となった。	地域の人やボランティアの人々が公園の清掃のあとや公園に来る親子がベンチに座り憩いの場所として重宝され楽しまれている。	日当たりや暑さの事を考えると東屋のような屋根か藤棚があると尚、憩いの場所としてはいいのではないと思われる。		休憩施設として利用することで、居心地の良い空間が確保された。	みどり農政課 公園費
市民レクリエーション大会事業	250	行事報償金 250	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。	5年ぶりに開催され、大勢の子ども達、大人達が集まり、やはり、この行事の大切さを痛感した。	レクリエーション大会を実施する事により大勢の人々が互いを知りコミュニケーションを計りこれからの地域活性の一助となった。	47年続いている行事で地域の人々が集い、楽しむ大切な活動と思う。	これからも増々、皆が楽しみ、喜ばれる大会にするためこの会の充実に計るにはもう少し援助が必要と考える。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティ各部会が行う事業や関心のある課題を住民に周知することでコミュニティの存在と役割を知ってもらおう事業。	年間2回のコミュニティ紙の発行事業で、旭丘、井口堂及び石橋における活動内容と地域性を広く伝達できた。	地域ボランティアの活動、学校と地域のつながり、石橋コミュニティ推進協議会の活動等を広く周知することが出来た。	新型コロナ後のボランティア活動の状況、多世代交流拠点建設後、等の記事を扱いたい。		落ち着いた色と写真やイラストを使用し読みやすい紙面となっている。今後の課題等に記載のある新しい記事内容については紙面のマンネリ化を防ぐためにも是非取り組んでほしい。	広報広聴課 自治振興費
避難行動要支援者対策事業	312	補助金 312	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安否確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	地区住民の中には、支援を要していてもなかなか行動にできず、なにか大きな災害時にも現況確認がしづらい状況であった	回数を重ねるたびに、要支援者とも顔なじみになり、近況を伝えてもらえるようになってきた	現況調査の継続により、要支援者への見守りと不安や疑問等に委員ができる範囲で対応をしている	各委員が受け持つ要支援者と連絡が取れず幾度の訪問や電話連絡を行ったが、転居や逝去だったこともある。今後は行政とも連絡しあい、もう少しスムーズな見守りができないかを、検討する		協議会を立上げ、事業を実施していただいている功績を非常に大きく評価し、継続的な事業の実施を行うことで大規模災害が発生した際の現況確認等に繋がることに期待	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	722	補助金 722	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をどうするべきなのか知識及び経験が不足しているため、緊急時の対応が取れない、又、有事の場合の避難及び避難所での対応方法等についての新しい知識習得も必要不可欠となります。	組織網の整備及び緊急時の対応(訓練ではあるが)体験及び各種(新)知識の向上が図れた。 ・総勢約330名の参加者で石橋中学校体育館及びグラウンドにて各種訓練受講。 ・備品購入に於いて、避難所生活に必要なであろうと思われるエアーマットをテスト的に購入。各自のテスト評価をまとめ、来期の追加数量の目安を検討中。又、初期消火が出来そうな放水タンクも購入し、同じく使用しての評価準備中。好評価を得れば、次年度の購入数増(設置場所含め)も検討する。	地域住民、学校、施設他及び行政の協力の基、連携を取りながら訓練が出来た。参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになると期待します。同じことの繰り返しではあるが、継続は力なりを念頭に継続実施必須。	各種の災害時(発生時間)に即対応が出来るか、訓練内容(夜間含め)を変えつつ継続実施する。学校の設備に頼らず、公園等にて何も無い場所でも一から炊き出し等が可能かやってみる価値あり。又、傷の手当て、身近にある品物を応用し、簡単に出来る方法等も織り込んでの実施をしたい。今回は実際に体育館での素泊まり計画。		小学生、中学生、地域住民をが合同で防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献していること及び防災備品の購入を行い防災体制強化をしていただいていることを評価	危機管理課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

地域内会館備品運営事業	470	補助金	470	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	コピー印刷機設置以前は各ボランティア団体は各自、コンビニ等でコピー印刷し、時間・費用等かなり負担をかけていた	設置以後は各団体がチラシ、レジメ等印刷する事が出来、非常に便利になった	費用、時間ともに短縮、軽減し、地域住民に多いに利益をもたらした。特に多量のチラシを印刷の場合、コンビニ利用していたが他の人に迷惑をかけていたがそれがなくなり仕事がしやすくなった。	井口堂北会館の二階ロビーに設置しているが、音がひびきやすく事務室を作り設置したい	設置場所については、引き続き検討を求めるもの。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域活動支援事業	40	補助金	40	地域の行事の備品運搬等の支援を行う。	個人所有の車で備品の運搬を行っていた	レンタカーで備品の運搬を行った。	車を使用する日時が自由になり、万が一の場合もレンタカーなので、レンタカーの保険内で対処できる	車の所有者がドライバーの時は今まで通り使わせてもらうが、そうでない場合はレンタカーを今後使用する。	今後も一部へ負担が集中しないよう調整いただきながら、イベントの円滑な運営に寄与いただきたい。	コミュニティ推進課 自治振興費
リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	一般のごみと一緒に捨てられ燃却されていたペットボトルキャップであった	地域内に回収ボックスを設置し、コミュニティの担当者が回収、リサイクル商品として生まれかわるプランターなどを紹介。回収量を増やす	石橋地区から他地区への活動に広がっている。学校・地域住民の意識の高まりを感じる。	・キャップのリサイクル品を増やしていくことを提案しているが、開発に時間がかかっている（アサガオ育成鉢など） ・回収作業ボランティアの増員を計る。	リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できていると認識。今後のリサイクル品の拡充にも期待したい。	環境政策課 自治振興費
交通安全モラル啓発事業	75	補助金	75	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。	一旦停止無視/スピードの出し過ぎ/無灯火ながら（スマホ操作他）運転等、手本となる成人が違反行為が減らない現状、及び、自転車転倒時の東部損傷による死亡率の上昇を踏まえて、ヘルメットの着用努力義務化等如何に順守出来るか。	本年度も新型コロナはインフルエンザ/風邪同等の格付け（ランク下がる）となりはしたが、依然増えたり減ったり、幾分か各種行事（イベント）等の実施が可能となったものの、集客増員となるようなイベント内容がまとまらず、中止とさせていたたく。	中止により、評価できず。	集客力（集客人員UP）向上をめざし、社協との連携を図り、開催件数を増やしなが、全体の集客力向上を目指す。又、如何に自転車運転時のヘルメット着用率を上げる施策を早急に練り直し、有意義（魅力）のあるイベント内容とする予定（既存看板修正、チラシ/ビラ手渡し等）。	事業未実施により未評価	交通道路課 自治振興費
地域美化整備事業	190	補助金	190	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てて、保育所、学校、各施設にプランターの花を贈呈する。	継続して地域の街路や公園に花をうえ、美しい街づくりを行っている。	プランターに花を植えていただくための花を配布し、地域の皆さんに心安らく空間を作った。	地域の皆さんに心安らく場所づくりになった。地域の皆さんの環境に対するモラル向上につながった。	植栽した花を長期にわたって維持することが難しいので、花を選定するときに、注意する必要がある。	水やり対策の検討は必要だが、花が溢れる訪れやすい公園になった。	みどり農政課 自治振興費
公園整備事業③	60	補助金	60	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、石橋公園に遊歩道を設置する。	石橋公園の周囲を散歩する場合北側においては、グラウンド内を通る必要があり、他の公園を利用している人を選けて歩く必要があった。	公園が憩いの場・遊びの場・集合の場として使用できる公園として、特に散歩やウォーキングを楽しむ人にとって使いやすい公園になった。	公園を1週する歩道が完成したので、散歩を楽しむ人が他の利用者に遠慮なく利用できる公園になった。	今後も周回歩道を維持するために、歩行者に邪魔になる木の下枝等を除去し、歩道の空間を確保する必要がある。	散歩を楽しむ人の周回歩道が整備され、公園の利便性が向上した。	みどり農政課 自治振興費
三世代交流事業	300	補助金	300	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	前年度はコロナ発生後はじめての開催となり、縮小して行った。いろいろな行事が中止となるなか、こども達も大人も心躍るような楽しみからも遠ざかり、近隣や地域の人々とのつながりも薄くなっていった。	各地域のボランティア団体や世代差のある人々が、共に準備から実行に至るまで協働した。	普段接する事のない人達が、共にひとつの行事をなし得るため、協力しあいながら汗を流し、最後には子ども達の喜び、歓声を聞き、達成感を得て、交流する事の大切さを感じた。	9月開催は納涼大会、運動会のはざまで大変忙しい行事である。そして台風シーズンでもあり、天候に左右される事が多く、開催時期を考える必要がある。	イベントの準備、開催を通じて、地域住民同士のつながりがぐに寄与することができた。	地域教育課 自治振興費
計	7,141			事業提案限度額	10,120千円	次年度繰越金額	2,979千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	57	電気使用料 2 機器借上料 52 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	校区内に23ヶ所の防犯カメラが設置されていた。	新たに1ヶ所の防犯カメラを設置し、全24ヶ所となった。	防犯カメラは犯罪被害の未然防止や犯罪の予防の有用性が認められている。地域の安全で安心な暮らしの実現を目指すために有効と考える。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	地域内の各種団体と定期的に交流の場を持ち連携を深めるなど、地域全体の力を高めるべく取り組まれている点を大きく評価。 今後はSNSの活用など新たな取り組みも踏まえ、協議会の運営体制の安定に繋がることが期待。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,147	電気使用料 44 機器借上料1,098 電柱等共架料 5	防犯カメラの維持管理を行う。	23台の防犯カメラを管理している。	新たに1台増えて、全24台となった。	—	本維持管理費用が令和5年提案事業の提案額の約24%を占めていたことが課題である。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	継続して緊急通報装置を管理している。	—	小学校や中学校への主要な通学路にあり、安心感があるとともに犯罪の抑止効果が期待できる。			緊急通報装置の運用が、今後、犯罪抑制に繋がることが期待	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	974	機器借上料 132 パフォーマンス料 65 インターネット使用料 127 補助金 650	地域コミュニティ推進協議会の事務所と、会員・地域住民が気軽に集える拠点の運営を行う。	継続して本協議会事務所を管理している。	同上。 まちプラは、地域住民が自由に立ち寄れるサロンとして、地域情報を掲示するまちの情報センターとして、また地域に関するご意見や相談事などを直接伝えることのできる相談所としての機能を有する。	事務所としての機能を発揮しているだけでなく、「五月丘まちづくりプラザ（通称まちプラ）」として、地域に開いている。 開設して4年目となり、住民の貴重な声を直接聞くことができ、日常の身近な情報が寄せられている。	共同利用施設五月丘会館内にあるため、閉館日に入館できず、本事務所として使用できなくなり、不便である。その他、複合機の更新が必要。 スタッフは本協議会会員に加えて地域の有償ボランティアの協力により運営しており、まちづくりに対する理解度や対応能力に差がある。		コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。引き続き適切な運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	319	器具費 319	地域内の会館にAEDを設置(更新)し、突然の疾病や事故に対処する。住民には救命講習の受講を呼びかけ万に備える。	校区内に2箇所のAEDを管理している。	五月丘会館に設置のAEDを新規に更新した。	これまで使用実績は1度もないが、校区内に1ヶ所は必要と考え、五月丘会館のAEDのみ更新することとした。	定期的なバッテリー等の交換が必要となる。		設置場所の精査に加え、本体の更新を行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	184	補助金 184	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	本協議会の活動内容を地域住民に周知するとともに、地域住民に必要な情報を発信するために、年に2回、まちづくり通信(広報誌)を発行し、全戸配布をしている。	上記の通り。	令和5年度から外部に委託し、誌面のデザインを一新した。とても読みやすくなったと好評を得ている。本協議会の活動や地域での取り組みについて情報発信を行うとともに、地域で活動する他団体を紹介した。広報誌を見て、会員の募集や有償ボランティア募集への申し込みもあり、今後も地域住民に関心のある内容を検討していきたい。	令和4年度から幅広い層に情報発信し、本協議会の認知度を上げるため、公式LINEをつくっている。スタッフも含めて運用方法について課題である。		落ち着いた色と写真やイラストを多く使用し読みやすい紙面となっている。公式LINE等も開設を周知し、幅広い層に情報を伝えたい努力を感じる。SNS等の配信については情報発信しすぎてもブロックされる可能性もあることから、配信情報を簡略しつつ、ホームページや画像(チラシ)に繋げる等の工夫をおすすめする。	広報広聴課 自治振興費
地域防災訓練強化事業	50	補助金 50	防災意識向上のため、ポスターの製作と自主防災組織また属さない人も一緒に、防災訓練や勉強会を実施する。	五月丘1丁目自治会自主防災・防犯隊と五月丘5丁目自主防災団と合同で防災訓練を実施。本協議会は自主防災組織のない地域住民の受け皿となる。	毎年のグループ訓練の他、起震車による地震体験、避難所設営訓練を実施した。令和5年度から校区子ども会が参加するようになった。子ども・子育て世帯の参加により、幅広い層の参加を得られた。	災害への備え、防災についての知識、そして災害に強いまちづくりを目指し、地域の方々が共助できる関係構築の重要性を学んだ。	本校区は自治会の加入率が低く、自主防災組織がない地域に住む住民が多いことが特徴で、今後も本協議会が、災害に強いまちづくりに向けて地域の共助的役割を果たせるように活動していきたい。		災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、幅広い年齢層の地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	76	補助金 76	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。	指定一般避難所となる五月丘小学校に必要な防災用品をリストアップし、順次、購入している。	おむつ・生理用品、工具類の他、防災トイレを購入した。	防災に対する事前の備えを進めている。	今後も本協議会所有の防災備品を点検し交換が必要な備品や不足している備品を整備していく。		災害時に備えた防災資材の補充を評価し、今後の有効性に期待	危機管理課 自治振興費
盆踊り大会支援事業	250	補助金 250	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	校区スポーツ振興会主催の本大会を支援。	お祭りの内容がコロナ前の内容に戻り、天候にも恵まれてたくさんの方が来場され、盛大なお祭りとなった。	本校区は地域イベントの少ない地域である。本大会は子どもからお年寄りまで楽しめる、地域にとって貴重なおまつりである。今後も支援を継続していく。	スタッフの高齢化と暑さの影響もあり、設営が大変。楽野地域コミュニティさんのやぐらをお借りするなど、設営の省力化を図った。今後も対策が必要。		老若男女問わず楽しめるイベントとなって地域内の交流において貴重な機会になったものと考え	シティプロモーション課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

五月丘フェスタ開催事業	380	補助金	380	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	毎年、五月丘小学校で実施。内容はフリーマーケット、模擬店、スポーツゲーム、キッズコーナー、ステージ。	会場内で地区福祉委員さんがフードドライブを行った。地域のお困りの方のために協力した。	本事業は、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめるイベントで、地域住民が交流できる良い機会となっている。運営には地域で活動するほとんどの団体の協力を得て実施する、地域連携事業である。また地域の学校（五月丘小学校、渋谷中学校、渋谷高校）と連携していることも重要である。	設営及び当日の運営の人員の確保。各地域団体の高齢化のため、若いスタッフの確保が必要。	地域の学校と連携を取りイベントを実施していることやフードドライブの取組など教育・福祉の観点からも地域内での交流に寄与しているものと考えている。	シティプロモーション課 自治振興費
コミュニティサロン設置事業	280	補助金	280	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	毎月2回、コミュニティカフェ五月丘(C.C.S.)を開催している。	内容をコロナ前の通常のスタイルに戻し、これまで実施できなかったイベント（歌声サロンや歯育て教室、和菓子づくり体験）も復活させた。	2012年度から本事業を始めて11年となる。地域に認知され、地域の憩いのコミュニティカフェとして定着している。	協議会の中で会員の入退があり、コミュニティカフェスタッフが減った。急速、地域で有償ボランティアを募集し、スタッフを補充し、現在運営している。	コロナやインフルエンザ等感染症対策が難しい状況の中でも、思考工夫しながらコミュニティのつながり強化に取り組んでいるものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
高齢者等の居場所づくり事業	220	補助金	220	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	毎月第3日曜日に、「おしゃべり広場」を開催している。	内容をコロナ前の通常開催の内容に戻している。	12月開催のクリスマス会には、毎年多くの地域の方が来場される。今年度は渋谷高等学校アコースティック音楽部の演奏会を始め、サンタクロース登場の他、ビンゴゲームなど、会場は大いに盛り上がり、楽しいクリスマス会となった。本協議会では地域の学校との連携に力を入れている。地域の学校に通う若い力を含めて、高齢化する地域を活性化したいと考えている。	スタッフの人員確保。本事業の立ち上げ時には、民生委員さんと地区福祉委員会さんの協力を得ていたが、協力者の高齢化に伴い、この協力を得にくくなっている。	地域の学校との連携が高齢者の生きがいづくりに貢献し、地域全体の交流と活性化を促進している役割となっている。	高齢・福祉総務課 自治振興費
地域介護者支援事業	64	補助金	64	地域の高齢化が進む中、介護に不慣れた男性の介護の担い手が孤立しないよう、介護に関する基本知識の座学及び調理実習を行い、同じ境遇にある人同士の交流を図る。	五月丘地域は高齢化が進んでおり、介護に不安を抱える方が増えていた。	介護に関する知識や心得を学ぶ機会を提供するために、介護教室を開催した。病院地域連携室の看護師、池田市地域包括支援センターの職員、介護施設の施設長さんに講師をお願いし、いざというときに困らないためにおきたいことや介護保険制度の概要、介護の心構えについての講演と、介護体験を実施した。	介護を考える良い機会であると好評を得た。	今後も継続してセミナーを開催し、介護をより安心して受けられる環境づくりに取り組んでいくこと。	介護の基礎を学ぶことで、介護が必要となったときに適切な知識やいざというときに困らないための心構えを持つことは重要であるため、有意義な活動であると認識している。	地域支援課 自治振興費
子育て支援事業	35	補助金	35	未就学児を子育て中の親子と地域の人たちが集い対話することで、子ども同士が交流し、親同士もつながり、また地域の情報を得ながら安心して子育てできる環境づくりを目指す。	五月丘に暮らす3歳以下の子どもをもつお母さんが親子で参加する「ほっとサロン」をNPO法人ママの働き方応援隊、ひだまり助産院の協力を得て開催。	令和5年12月に地区福祉委員会さんの「子育てサロン」と合同で実施した。	地区福祉委員会さんに子ども達の遊びやお楽しみタイムなどを担当していただいたおかげで、お母さん達が「ほっと」できる時間となり、心を元気にすることができた。子育てやお母さん同士の情報交換・交流の場となった。	開催時期について見直しが必要。インフルエンザ等が流行る時期の開催は、3歳以下のお子さんの参加は難しい。	親子の交流の場として地域に定着しているものと認識。地域の社会資源を掘発・活用しながら、新規の方の参加を促すような取組を期待。	子育て支援課 自治振興費
花プロジェクト事業	150	補助金	150	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	五月丘小学校の授業の一環として、また渋谷中学校のクラブ活動の一環として、年2回実施。	(6月)小学校330株、中学校220株、花植えを実施。 (10月)小学校1,000株、中学校800株、バラ苗移植を実施。 (12月)小学校及び中学校で出荷式を実施。 子ども達が育てて開花させた花は、校区内の自治会（アルビス五月丘）やしぶたに学園、池田五月山教会幼稚園、五月丘こども園、くすのき学園、五月丘郵便局、セブンイレブン五月丘店に配った。	子ども達が育てた花を地域の公共の場に植えて、街並みに花を添える。学校と地域が連携して緑豊かなまちづくりに取り組んでいる。	地域に配る花の数を増やしたい。	引き続き地域住民と教育現場が連携し、花に溢れた街づくりと子供の健全な育成に役立っている。	みどり農政課 自治振興費
イベント運営事業	303	補助金	303	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	グランドゴルフ(年2回)、里山教室(年2回)、五月山ハイキング、卓球教室を開催。	グランドゴルフ(6月、11月、3月)、里山教室(7月、11月)、五月山ハイキング(1月)、卓球教室(2月)を開催。五月山ハイキングと卓球教室は、校区スポーツ振興会主催のイベントでこれを支援。	グラウンドゴルフ大会は、スポーツを通じた地域交流の機会としている。里山教室は、五月山で間伐作業を体験し、子ども達には五月山の自然や里山の大切さを伝えた。	7月開催の里山教室では、当日の終了後に熱中症警戒アラートが発表され、今後は開催時期を見直す必要がある。	地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 自治振興費
計	4,790			事業提案限度額	9,375千円	次年度繰越金額	4,585千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目（目）	
	説明											
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課自治振興費	
防犯カメラ新規設置事業	280	電気使用料 8 機器借上料 260 電柱等共架料 12	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	石橋1-5-2付近、石橋1-7-14付近、住吉1-9-1付近の住民から近くに防犯カメラが無く、死角になる場所があるとの報告。	新たに防犯カメラを設置した。	犯罪抑止になり地域住民に安全安心を寄与した。必要に応じ、カメラの開示を実施した	継続管理	各部会（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	各ブロックごとに要望を拾い上げ、ハード事業を中心に、特色のあるまちづくりにつながっているものと評価。今後の課題として、協議会役員のなり手不足が考えられる。持続的な組織であるためにも、若い世代を協議会に取り込み、ともに活動していけるような取組が必要だと認識するところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	711	電気使用料 29 機器借上料 682	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	当地区には既設6台を維持管理している。	引き続きカメラ設置に係る維持管理の為、定期点検を実施 正確な情報提供に努めた	地域内犯罪の抑止及び安心な生活環境を確保した 必要に応じ、カメラの開示を実施した	継続				継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課自治振興費 コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業①	17	清掃委託料 17	地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。（空港会館）	日常の軽易な清掃は実施している。	年一回業者にワックス洗浄作業の実施を委託した。	作業の併用により会館の美化及び清潔を保っている。	引き続き実施していく				会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業②	113	清掃委託料 113	住み込みの管理人のいない地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。（石橋会館）	石橋会館に住み込みの管理人がおらず、行き届いた清掃が難しい状況である。清潔に保つため定期的な清掃が必要である	年3回の業者の作業の実施を委託した。	会館の美化は保っている。	引き続き実施していく				会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
AED管理事業	319	器具費 319	地域内の会館にAEDを設置（更新）し、突然の疾病や事故に対処する。住民には救命講習の受講を呼びかけ万に備える。	各会館に設置したAEDについて定められた消耗品の交換及び令和5年8月本体使用期限を迎える。	本体の更新を行い、正常に使用できるよう維持管理	市民の安全を確保できる体制を維持した。	維持管理				本体の更新を行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課保健衛生総務費
水路転落防止柵等設置事業	448	修繕料 448	水路の両側に転落防止柵を設置し安全対策を図る。	空港1丁目12にある水路に人、自転車、車の転落事故があり、危険な状況。	水路の両側に転落防止柵を設置した。	転落事故を防ぐ効果が出た。	維持管理を継続。				水路沿いの転落防止柵設置により、通行の安全性が向上した。	土木管理課交通対策費
道路安全対策事業①	117	修繕料 117	歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	見通しの悪い交差点があり、危険。	カーブミラーを1基設置した。	カーブミラーの設置により歩行者の安全の確保がより可能となった。	維持管理を継続。				道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	土木管理課交通対策費
道路安全対策事業②	1,091	修繕料 1,091	児童が登下校の際に利用する通学路に道路標示を設置し、運転手に注意を促し児童の安全を確保する。	事故の危険性のある通学路があり、危険。	通学路道路標示を設置。	運転手に注意を促し歩行者の安全を確保した。	維持管理を継続。				路面標示の設置により、通行の安全性が向上した。	土木管理課道路維持費
公園整備事業	2,991	修繕料 2,991	石橋駅前公園内に引込ポール電気設備を設置し利便性の向上を図るとともに季節を感じられる植木を植樹する。	石橋まつりで設置している電気設備の仮設備の費用が毎年かなりかかる。令和3年度石橋駅前公園に植えられたトキワマンサクが枯れてしまった。	常設電気設備を設置した。トキワマンサクを再度植え替えた。	仮設備に比べて今後毎年の電気費用を削減することができた。これにより他のイベントにも使用し活性化に繋げる。公園内の美化を維持し、枯れ木倒木による危険を回避した。	維持管理を継続。				イベント開催の利便性がよくなった。また、植樹により景観形成が図れた。	みどり農政課公園費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	スポーツ振興を通して地区の事業として地域の親睦に役立っている事業	石橋南小学校にて開催	地域のコミュニケーションを図り、又スポーツ意識の向上、健康増進に努めた	継続				地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	293	補助金 293	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年間3回発行し、地区内全戸に配布した。	地域住民からの当会の活動状況の理解に寄与した。	継続。	落ち着いた色と写真やイラストを使用した読みやすい紙面となっている。引き続き地域住民のためのわかりやすい地域情報紙の作成に努めてほしい。	広報広聴課自治振興費			
地域防災体制強化等事業	390	補助金 390	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（空港地域）	空港地域内13か所にある消火器が期限切れを迎える。 空港地域自主防災会で管理している備蓄食の賞味期限を迎える。	消火器13台新品と取り替えた。 一定必要数の備蓄食を更新した。	防災機材の計画的な備え、補充による安心安全に寄与した	維持・管理の継続	災害時に備えた防災資材の補充を評価し、今後の有効性に期待	危機管理課自治振興費			
地域行事等活動推進事業	165	補助金 165	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。	地域で行事を開催し、活動に係る支援を毎年行うことにより地域活性化を図っている。	7月29日30日石橋まつりを開催の経費の一部を負担し、積極的に参加した。	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行うことにより、地域が活性化を図った。	継続支援。	2日間を通して多くの来場者があり、大変にぎわいがあったものと聞き及んでいる。	シティプロモーション課自治振興費			
地域内会館管理運営事業	362	補助金 362	地域内会館の管理運営を行い、会館利用者の利便性の向上を図る。	会館フリーWi-Fi設備・コピー機設置のリース契約の継続及びトナー代、プロバイダー費用の支払	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	継続。	会館の利便性が向上したものと評価。引き続き適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課自治振興費			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

石橋南地域花いっぱい運動支援事業	120	補助金	120	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園に植え替えることで、まちの緑化を志すボランティアの育成や児童に命の大切さを伝える。	石橋南小学校児童により花苗を育て校庭や地域の公園に植え替えることを企画。	夏用、秋用の花の苗を植えた。	まちの緑化を志すボランティアの育成や地域住民参加によるまちの活性化、児童に命の大切さを伝えることができ、地域住民から活動状況の理解を得られた。	継続。			継続していくことで、緑化の意識も高まり、ボランティア精神の育成に繋がる。	みどり農政課 自治振興費
地域内学校園備品整備事業	592	補助金	592	地域内の学校園において開催される各種イベントにて必要となる備品の整備を行う。	石橋南小学校の運動会等のイベントで児童、保護者用テントが少ない。	ワンタッチテント及びテント用加重プレート購入	運動会等のイベントで児童及び保護者に対して使用し、熱中症対策に寄与した。	維持管理を継続。			快適に利用してもらうための環境整備を実施することにより、安全に活動を行うことが可能となった。	教育総務課 自治振興費
計	8,309			事業提案限度額	16,714千円	次年度繰越金額	8,405千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
防犯カメラ維持管理事業	722	電気使用料 29 機器借上料 693	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため設置した防犯カメラの維持管理を行う。	地域の安全安心のため、防犯カメラの維持管理は欠かせない。	効果はあるものと思われる。	効果はあるものと思われる。	校区内で防犯カメラがカバーしていないところで露出事案が発生し、どこまでカバーすればよいのか大いに悩むところである。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	継続事業となっている各種イベントに加えて新規事業にも取り組まれ、地域コミュニティの活性化に寄与されたものと評価。 イベント参加者の増加やコミュニティ紙の充実に関しては、新たに取組まれるSNSの活用効果に期待するところ。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
AED管理事業	52	消耗品費 52	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域の安全安心のため、AEDの維持管理は欠かせない。	安心して使用できる。	安心して使用できる。	防止訓練などに参加を促し、AEDを操作できる人を増やさなければならぬ。		消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設のAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
道路安全対策事業	1,258	修繕料 1,258	曲がって見通しの悪い五差路交差点にカラー舗装をすることで、注意喚起をし交通安全対策を図る。	狭い、複雑な形をした5差路が危険箇所となっていた。	赤いカラー舗装をし、中心に夜間点滅するライトを取り付けた。危険箇所であることは、ドライバーや自転車にも認識できると思われる。	道路面の色が違うため、原則しなければならないという意識はできる。道路が細く感じられるようになった。	近くに業務スーパーがあり、校区外の車も多数走っている。駐車場は増やしてくれたが、ドライバーが車内で待って買い物に行く光景もよく見かける。子供たちの通行の邪魔になっている。		カラー舗装の設置により、通行の安全性が向上した。	土木管理課 道路維持費	
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	コロナによる中止もあり、久しぶりの開催であった。	久しぶりでいろいろな段取りを忘れていた。	スポーツをしない大人にとっては、体を動かす良い機会だと思われる。	子ども会などの既存の団体を中心に体制を組んでいることもあり、子ども会の規模縮小で参加者が減少傾向である。もっと広く広報し子ども会等に参加していない子どもたちやその父兄が参加しやすい形態を作らなければならない。そうすることで、子ども会への入会も増えるのではないだろうか。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	236	補助金 236	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	毎年年3回の発行を行う。	今年度は2回の発行となった。	子ども会の情報を掲載した。	もっといろいろな地域の情報を掲載したい。		限られた紙面の中で簡潔に情報がまとめられている。一方、写真やイラストが少なくないため、もう少し取り入れても良いのではないかと感じた。	広報広聴課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	150	補助金 150	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を図る。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	例年5月の第2日曜日に行っている。毎年ほぼ同じ内容をやっている。	自主防災団体の無い自治会の方々の参加があった。	毎年ほぼ同じ事を行っているが、それなりに意識の中に防災意識を持っていただいていると思う。消防団や子供会などの協力も得て、それなりの規模で開催できている。	自主防災体制の再構築、参加いただく地域、自治会をふやさなければならない。		災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費	
地域イベント開催事業	683	補助金 683	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者を楽しんでいただく。	菖蒲祭りの一環として行っている。	だいぶんましになったとはいえ、下のグラウンドでの催しの一体感が薄い。	菖蒲祭り実行委員会内の予算が厳しく四苦八苦している中、コミュニティが動物園を担当していることで多少実行委員会も助かっている。	菖蒲祭りとしての一体感が大事。		地域で広い世代の方々が楽しめるイベントとなっているものと認識している。	シティプロモーション課 自治振興費	
オータムフェスティバル開催事業	200	補助金 200	緑丘小学校において校区全体の交流を目的としたフェスティバルを開催する。	コロナで中止していたが、久しぶりの開催となった。	来場者がおよそ600人程度。いつもの事ながら、お昼前後にお客さんが集中する。ゲーム屋さんなどの出店もあり、にぎやかであった。	緑丘小学校校区全体の催しは菖蒲祭りとこの2つであるが、緑丘の人には水月公園は遠く、緑丘小学校での開催にはそれなりに意味がある。	集客の核となる催し物が必要。今回、強風でテントがつぶれてしまった。怪我無く済んでよかった。		地域の交流によるにぎわいがうまれるイベントであるものと考え。テントが強風で飛ばされた点について、怪我無く良かったものの、今後安全に十分注意し、実施いただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費	
ふれあい落語会開催事業	200	補助金 200	本格的な落語を身近に鑑賞できる機会をつくるためのイベントを開催する。	前年度まではアルビス集会所での開催であった。	今年度、鉢塚会館での開催となった。集客が大変心配であったが、100席用意した椅子が足りず追加した。	来場者には大変好評であった。文我さんの独演会に行きたいとおっしゃっておられる方もあった。アルビスより若い層が見受けられた。	ステージが暗く追加の照明を考えたい。文我さんから暗幕を閉めるよう言われたが、暗幕がボロボロで閉めることができなかった。		今回から会場を変更しての開催となったが、新しい客層にも足を運んでいただけの結果となった。次回からアンケート結果等の添付をお願いしたい。	人権・文化国際課 自治振興費	
狂言鑑賞会開催事業	393	補助金 393	古典芸能の狂言を鑑賞し、親子、地域住民との交流を図る。	前年度まではオペラ鑑賞会をやっていた。	自ら足を運んでまで観に行くことはないであろう伝統芸能の狂言の鑑賞会を開催した。	先生の中でも生で観るのは初めてという方もいらっしゃった。子どもたちにもいい経験であったらと思う。	いろいろな意見を聞き、子どもにも大人にも楽しめ、知識を増やすことのできる本物の舞台芸術を鑑賞していただきたい。		狂言を観る機会は大変貴重であり、幅広い世代にとって興味深い内容になったと思料。次回からアンケート結果等の添付をお願いしたい。	人権・文化国際課 自治振興費	
高齢者等の居場所づくり事業	50	補助金 50	家族の健康や介護、自身の不安や悩みについて気軽にしゃべりする機会を設ける。	今年度が初の試み	今までの事業ではカバーできていなかった緑丘1丁目でも集会をもった。	地域のお年寄りの不安などを共有する事ができた。包括支援センターの事がわかってよかった。少人数での集まりなので話しやすかった。ヘルパーさんやケアマネージャーは変更できないのかという質問が多かった。	年10回を目標にしたが、7回で終了した。	少人数で安心して話せる場が提供され、不安の共有や介護支援に関する理解が深まる場を提供していただいている。	高齢・福祉総務課 自治振興費		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

健康啓発講座開催事業 ①	100	補助金	100	増加する認知症患者に対する正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	健康啓発講座も回を重ねてき、多くの情報を伝えてきている。	新しい体操なども取り入れ参加者の皆さんに良い情報をフィードバックできている。	認知症に対し恐れることなく予防、介護していくための一助となっていると思われる。	新しい情報をどんどんお示しできたらよいと思う。	認知症は、予防と早期発見が重要であるため、不安になったときの相談先等についても講座で取り上げていただきたい。	地域支援課 自治振興費
健康啓発講座開催事業 ②	70	補助金	70	老若男女が体を動かしダンスを楽しむことで、健康維持、ストレス発散を図るとともに住民の交流を深める。	去年から始まったこの事業だが、安定して参加者が通ってくれている。	親子での参加が目立つ。	女の子だけでなく男の子も親も一緒にダンスを楽しむ姿を見て本当にやってよかったと思う事業である。	できることなら中学生、高校生などにも来てもらいたい。	年代にかかわらず、楽しくダンスをする時間を共有することはコミュニケーションをとる良い機会であり、人の輪を広げ身体と心の健康推進に繋げていただきたい。	健康増進課 自治振興費
交通安全看板設置事業	913	補助金	913	交差点等危険箇所の電柱に交通看板を設置し、交通安全意識の向上を図る。	看板がボロボロであった。	スッキリよく読める。	安全に対する意識が高まる。	追加を希望する方がおられる。	看板更新により、危険箇所であることの再認識が期待できる。	交通道路課 自治振興費
子ども安全見守り隊支援事業	93	補助金	93	緑丘小学校児童の登下校の見守り隊の活動を支援する。	旗がボロボロで、数がそろっていなかった。	スッキリよく読める。	安全に対する意識が高まる。緑丘小学校の全家庭に貸出しを行い、見守り隊への参加を促す。	地域で見守り活動を行うことが重要。	新調した旗を各家庭に貸し出すことで、登下校の見守り活動の充実につながった。	地域教育課 自治振興費
キッズランド支援事業	52	補助金	52	心豊かでたくましい子どもを地域全体で育むため、大人が指導員となり遊びやスポーツ、文化活動を通じて交流を図る。	きれいになった体育館の2階で勉強ができるようにしたい。	体育館の2階で宿題をし、遊ぶ。	宿題のほか、色々な遊びよい姿勢でできる。	キッズランドのボランティアスタッフも高齢化し、厳しい状況である。	新たに長机を購入することで、キッズランド活動の充実につながった。	地域教育課 自治振興費
計	5,522			事業提案限度額 14,044千円	次年度繰越金額 8,522千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	170	電気使用料 5 機器借上料 156 電柱等共架料 9	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	29年度に神田消防分団近辺・脇塚の中国道下の地下道に防犯カメラを2台設置合計3台の維持管理が必要。令和4年度に日中の空き巣事件にたんを発生し、地域全体に防犯カメラ設置したが、まだ不十分なところがあった。	3台のカメラについては、令和元年度も保守点検等の維持管理（電気料含む）費用が発生。令和2年度は神田東公園設置分は撤去することになった。（道路公園との関連）令和4年度に続き、5年度も追加で防犯カメラ設置した。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。事故抑止効果が期待できる。「防犯カメラ作動中」の看板も効果が出ているのではないかな。	さらなる設置場所の検討が必要か。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	神田会館前広場については地域の親子が創出につながっている好事例と評価。今後の施設整備については、池田市が策定予定の公共施設再編計画もご認識いただきながら、地域内のバランスや公平性の担保に留意いただいた提案をお願いするところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,897	電気使用料 72 機器借上料 1,819 電柱等共架料 6	事故や犯罪を未然に防ぐ為の防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	29年度に神田消防分団近辺・脇塚の中国道下の地下道に防犯カメラを2台設置合計3台の維持管理が必要。令和4年度に日中の空き巣事件にたんを発生し、地域全体に防犯カメラ設置したが、まだ不十分なところがあった。	3台のカメラについては、令和元年度も保守点検等の維持管理（電気料含む）費用が発生。令和2年度は神田東公園設置分は撤去することになった。（道路公園との関連）令和4年度に続き、5年度も追加で防犯カメラ設置した。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。事故抑止効果が期待できる。「防犯カメラ作動中」の看板も効果が出ているのではないかな。	さらなる設置場所の検討が必要か。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	行事報償金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。令和5年度はコロナ騒動も収まり再開できた。	地域行事の活性化が図れた。令和元年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。令和2年以降コロナ関連で実施できなかったが、5年は再開実施できた。	令和元年度から行事報償金への変更した。今後も継続して支援金額の検討が必要。			令和元年以来の開催とのことで、地域での交流の場の創出になったものと認識。	シティプロモーション課 自治振興費
地域内会館設備改修事業	1,057	修繕料 1,057	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（神田会館）	神田会館前広場は日陰の場所もなく夏には暑くこどもの利用もすくない。	会館前広場の西部に人工芝を設置したところ、こどもの利用者が多くなった。	靴を脱いで裸足で遊ぶ子供が増えた。	東側部分にも人工芝が必要。			利用者のニーズに応じた設備改修が出来たものと評価。会館利用者の増加に寄与することに期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
街路灯強化事業	27	電気使用料 27	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。（放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘）	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施。校区内の夜間が明るくなった。維持費も発生。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。			街路灯を適切に維持管理することで、夜道の防犯対策に寄与することができた。	土木管理課 交通対策費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。令和5年度は新型コロナ関連も収まり、午前中のみではあったが実施できた。	地域行事の活性化が図れた。令和2年・3年・4年と3年続いて実施できず。令和5年度は午前中のみであったがおおぜいの参加を得て実施できた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車で行う。	P T Aによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。（平成21年1月以降）平成30年度につづき、継続実施できた。また、令和元年度に老朽化に伴いバッテリー交換不可のため新規に3台購入。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。また、PRのためパトロール中の肩掛け標も効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。			日々の地道な活動が地域の安全確保に繋がっている点を評価するとともに、本事業がより一層の犯罪抑止に繋がることを期待	危機管理課 自治振興費
神田フェスタ開催事業	150	補助金 150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	令和元年度も年3回の神田フェスタを開催予定していたが、今年にはいつのコロナ感染の問題で3月予定のフェスタは中止となった。令和5年度は昨年に続き2回実施できた。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。久しぶりの神田フェスタということで大勢の参加で賑わった。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむつかしくなってきた。（神田地区中心部にある民間設備の利用も検討）			令和元年以来の開催とのことで、大勢の人が集まり、地域での交流の場の創出になったものと認識。	シティプロモーション課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	100	補助金 100	神田会館に子ども文庫を設置し、絵本を見るために子どもが集まりやすい環境をつくる。	神田会館には遊具以外に子どもが集まるような備品がなかった。	子ども文庫を設置し、絵本をみるために子どもが集まりやすい環境をつくる。令和5年度にはコロナも収まり、子ども文庫を開設した。掲示板にも開設案内のチラシを掲示した。	絵本追加購入実施した。子ども文庫の利用者が多くでできた。	新規絵本購入方法の検討も必要。			子ども文庫の運用については、運営委員会と協議を行ったうえで適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	404	補助金 404	神田会館に整備した備品の運用を行う。	パソコン・コピー機等がなく不便。（個人の機器の使用・コンビニでのコピー）	ノートパソコン・複写機をリース、書類・パソコン等の保管用の保管庫も購入。	個人の機器の使用もせずすみ、協議会用書類も安くコピーできるようになった。	専用の事務室の設置、併せてファックス用の電話設置が必要。コピー機も他団体が利用できるように検討が必要。			運用基準を設けたうえで、適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	847	補助金 847	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や他団体、神田の行事、歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。令和2年度以降中断していたカレンダーの発行要請が強く、令和4年度に再度カレンダーを発行した。再開が好評だったので、令和5年度も発行した。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚ははかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることの検討が必要。住宅の増加を常にチェックし発行部数の検討が必要。			地域への愛着心の形成に寄与しているほか、地域外の方からも好評であり神田地域の広報を担っているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	100	補助金 100	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。また神田小3年生とP T A、地域が一緒になって花を育て、学校や街に植えつける。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3か所に花壇を設置、定期的に入れ替え・水やり等ができるようになった。（神田花の会メンバーが対応）また、令和元年度から神田小学校3年生とP T A、地域が一緒になって花を育て、学校に植えたり、地域の施設・団体に贈呈することも始めた。	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。			地域住民や公園利用者に、綺麗な花々が楽しめる喜ばれている。	みどり農政課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

キッズランド支援事業	150	補助金	150	こどもパソコン学習教室を小学校・キッズランドと連携して開設し、パソコン操作等の指導を行う。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。 令和4年度も新型コロナ関連でキッズランドは実施できなかった。 5年度はコロナも収まったが、毎週のキッズランド活動は中止となった。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。 令和2年・3年・4年度と3年続いて実施できず。 5年度はコロナも収まったが、毎週のキッズランド活動は中止となった。	キッズランドの実施状況が変わったため、今後の支援方針については見直す方針。			事業未実施により未評価	地域教育課 自治振興費
計	5,472			事業提案限度額 13,156千円	次年度繰越金額 7,684千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）	
	説明											
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費	
細河祭り運営事業	150	負担金 150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まつり運営を支える必要がある。	地域住民の実行委員会が主体で運営を行って、コミュニケーションを充実させることができた。	地域及び地域外との活性とコミュニティ意識の高揚。	地域での行事継続の取り組み方。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	多くの事業が継続事業であり、地域のNPOとともに地域の活性化に貢献したものと評価。補助金の執行にかかる内容・内訳等については、透明性が確保できるよう、協議会として引き続き精査いただきたい。人材不足が課題となっている配食サービス事業の継続にあたっては、他団体との連携・協働なども含めて検討をお願いするところ。	地域の祭りの継続を行い、周辺住民を含む来場者が楽しめるイベント作りに取り組んでいるものと認識。	シティプロモーション課 観光費	
細河の自然を守る事業①	41	管理委託料 41	ピオトープでのホタルの育成事業を実施し、細河の環境資源を活用した地域の活性化を図る。	ピオトープの整備継続中である。	整備は継続中であるがメダカ等生息の観察ができる。	豊かな自然環境の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。自然観察・保全を行う諸団体とも交流を持つことができた。	引き続き維持管理を行うため、多額の予算が必要となる。				継続した整備により自然環境の保全に繋がっているものと認識。	環境政策課 環境対策費
街路灯強化事業	8	電気使用料 8	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。				街路灯を適切に維持管理することで、夜道の防犯対策に寄与することができた。	土木管理課 交通対策費
細河コミュニティ道路維持管理事業	69	清掃委託料 69	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	設置した街路灯の電気代の支払いが必要である。また、雑草や枯葉等で滑ったりして危険である	電気代を支払った。また、急な箇所も滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散策する人が安全に通行出来る様になった。	維持管理が年々負担に成りつつあるので、事業が負担なく出来るよう検討が必要				コミュニティ道路の清掃や除草等により、適切な維持管理を実施できた。	土木管理課 道路維持費
地域コミュニティ紙等発行事業	360	補助金 360	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているのかわからないため、活動を知っていたら、関心を高める必要があった。	年2回（7月、1月）発行。部会毎の事業報告や親水公園・イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新会員の募集をしていく。地域の方が何を考えているのか投稿コーナーを充実させていきたい。				表紙に写真を大きく使用し、紙面も簡潔に掲載しており読みやすい。地域住民の声を掲載することは良いアイデアであり、是非取り組んでほしい。	広報広聴課 自治振興費
細河ホームページ管理事業	120	補助金 120	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月2回（年間）広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河を訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。地元の事業（お祭り等）についても発信していきたい。				引き続き、より見やすくタイムリーにサイトを更新できるように、努めてほしい。	広報広聴課 自治振興費
細河地域活性推進事業	1,606	補助金 1,606	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営を行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営が必要である。	みどりの郷（火曜日は休館）は朝9時から午後4時30分まで開館している。多くの方が訪れ、地域の活性に貢献した。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。細河の自然を市民に提供し、地域活性に寄与した。	事務所詰め等のボランティアの募集。				案内所の運営をはじめ、美化活動等にも取り組み、細河の活性化に寄与したものと考える。	シティプロモーション課 自治振興費
細河高齢者等配食サービス事業	2,700	補助金 2,700	配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評であった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な妊婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める率が増額し、他の事業に支障をきたす。				配食サービスと見守りにより、高齢者や妊婦の安心と健康を支える重要な取り組みである。	高齢・福祉総務課 自治振興費
細河の自然を守る事業②	780	補助金 780	里山での竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と薪、子供達向けの工作資材に利用している。	豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。				リサイクル事業も進み環境改善も進んでいるが、事業継続には予算や人的資源に検討を要する。	みどり農政課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	補助金 30	地域と学校と一緒に実施する「みんな育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。	引続き両地域の協働が進むことで、連携強化と地域美化が更に進むことを期待する。	みどり農政課 自治振興費			

体験学習支援連携事業	400 補助金 400	地域と学校との交流を通じた活動を行うことにより、子どもたちの知識や情操の発達・向上を図るとともに、これらの活動を通して、地域への愛着心の涵養を図る。	食育、川遊び、森林の間伐等について、学校と連携した活動が増してくる。	学校授業として、食育、川遊びを体験してもらう。	自然とのつながりを生徒とともに学習することで、学校授業に寄与しました。	地域と学校とのかかわりをさらに深める。			サツマイモや大根の栽培・収穫体験、山林間伐体験、余野川生き物調査を実施することで、子どもたちに学びや体験の機会を提供するとともに、地域と学校の連携・協働を深めることができた。他方、本事業の約8割は人件費であり、NPO法人に一括委託となっている点については、公金の適切な取り扱いという観点から見直しが必要。	地域教育課 自治振興費
細河地域子ども育成事業	300 補助金 300	校区全体で子どもの育成を行い、協議会と子どもが協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども達の活動支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	8月にプール場、11月芋ほり、3月にいちご狩りを実施する。子どもの育成に寄与することができた。	子ども達の活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	地域と子どもとの関わり。		不死王閣でのプール遊び、芋ほり体験、いちご狩り体験を行うなど、地域の子どもと大人が関わる機会を創出することで、地域全体で子どもの成長を支える体制づくりに寄与することができたと考える。次年度以降は、具体的な効果検証ができるよう、イベントの参加人数等についても報告をお願いするところ	地域教育課 自治振興費	
計	6,664	事業提案限度額 6,664千円 次年度繰越金額 0千円								

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額（千円） 説明		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における 評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
安全パトロール実施事業	499	修繕料 72 保険料 49 自動車重量税 7 補助金 371	地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。</p> <p>H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。</p> <p>H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。</p> <p>H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。</p> <p>朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p> <p>H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定でき、隊員のアクセスが良好になった。</p> <p>H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。</p> <p>R1年、隊員の高齢化が進み、80歳になったのを機に除隊の申し出が多くなった。R2年以降は、免許証なしだが、同乗でパトロールをお願いして隊員補充を行なっている。</p> <p>事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が嵩んだ。さらにR3年2月、3月と連続してパンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。</p> <p>令和4年1月に、テイズのバッテリーが上がり、バッテリーを交換し、100Vチャージ器で定期的にバッテリーの充電点検を行うことにした。</p> <p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回あたり1時間これを実施した。</p> <p>巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう心がけた。</p> <p>R4年度は屋間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、屋間の乗務が激減した。補充のため、多数回の乗務をして頂く隊員に夫婦での乗務をお願いした。</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、朝は二人乗務ができないため、定点パトロールで挨拶を実施した。また、昼間は夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回あたり1時間これを実施した。</p> <p>巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう心がけた。</p> <p>R4年度は屋間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、屋間の乗務が激減した。補充のため、多数回の乗務をして頂く隊員に夫婦での乗務をお願いした。</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりを、防犯カメラ事業との相乗効果もあり、毎年空き巣犯罪“0”を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。</p> <p>令和2年度からは、駐車違反やごみ不法投棄、猫ことで度々地域住民に呼び止められることが多くなったが、池田署や市役所への連絡でしか対応することができない。令和4年度は、長髪軽躁の男性の不審者情報が度々寄せられたが、地域住民の散歩と判明した。</p> <p>朝のパトロールは主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。</p> <p>下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p> <p>除隊の申し出が4名、死去1名あったが、新たに2名入隊されたため、かろうじて現状維持が可能となった。</p>	<p>毎年課題は同じく、隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュールに空欄が多々生じている。</p> <p>出勤が二人ペアが鉄則であるため、朝は一人で定点立ちとし、昼間は運転免許を保有しない65歳以上の高齢者の同乗をお願いして運行スケジュールを凌いでいる現状である。</p> <p>交通に閉鎖的な地域が幸いして、パトロールにおける事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。</p>	<p>各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。</p>	<p>積極的なSNSの活用により、地域内はもちろん、池田市内外での知名度向上にも貢献されたものと大きく評価。</p> <p>一方、地域活動の担い手の絶対数が減少している近年の状況においては、一部の会員に負担が集中しすぎないように、またコア人材の脱却により組織が急激に弱体化することのないよう、各事業の運営方法について見直しが必要であると認識するところ。</p>	<p>日々の地道な活動が地域の安全確保に繋がっている点を評価するとともに、本事業がより一層の犯罪抑止に繋がることを期待</p>	<p>危機管理課 一般管理費／自治振興費 総務課 財産管理費</p>

<p>地域行事等活動促進事業</p>	<p>250</p>	<p>行事報償金 250</p>	<p>行事を通して住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。</p>	<p>子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御輿の巡行が2丁目だけでできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御輿と同様の外観を有する子供御輿を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。</p> <p>そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御輿が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。</p> <p>第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。</p> <p>しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられ、夏祭りが平成27年8月22日に開催された。また同じメンバーによる第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催し、さらに平成29年8月26日に第43回夏祭りが開催された。</p> <p>一方子供会は、1丁目子供会と2丁目から5丁目まで全てが統合されたわんぱく子供会の2組織になった。</p> <p>平成30年度も、住民有志による第44回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成30年8月25日に開催された。</p> <p>本協議会役員が組織した伏尾台夏祭り実行委員会が主催し、R1年度も8月24日に第45回伏尾台夏祭りが開催された。</p> <p>ほそごう秋祭りは11月3日に本協議会が支援する伏尾台合同防災訓練と合同開催された。11月3日9時30分より合同防災訓練が開催され、450名を超える参加者が7種の訓練を受けた。ほそごう学園3年生、8年生は全員参加して午後からの秋祭りの各種イベントにも参加し、国際交流センターのベトナムの若者たちや伏尾台地域住民との交流に貢献してくれた。</p> <p>夏祭りは、R2年度の第46回、R3年度の第47回、R4年度の第48回、それぞれコロナ禍のため中止となった。</p>	<p>令和5年8月26日に、第49回伏尾台夏祭りが開催できるように、夜間照明の設置費用旧北高校駐車場警備費用の一部と子ども御輿保険費用を補助しました。</p> <p>祭り当日は、午前8時より12時まで、1丁目三角公園より子供御輿が巡行を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御輿が4.5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。</p> <p>午後からの夏祭り第二弾としてのスポーツ振興会主催のゲーム大会を開催した。</p> <p>会場の伏小南校舎前に特設ステージを設け、午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。続いて、打ち上げ花火が行われた後7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。</p> <p>伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多くの参加者があった。</p>	<p>育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子供会の新旧の校区長が毎年加入していたき、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。</p> <p>夏祭り実行委員会が自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作り貢献している。</p>	<p>子ども会は、1つに統合されて運営されるほどの子どもの人数が減少している。R5年の夏は猛暑であり、午前中の御輿、午後からのゲーム、夕刻のフェスティバルに参加することが、極めて苦痛であるとの声が上がったので、R6年度は、午前の早い時間から短時間の御輿巡行のみ参加できるようにし、午後からのゲーム大会をなくし、さらに、夏祭りの開始と終了時刻を早めることで、子どもだけでなく、関係者の負担軽減を図りたい。</p> <p>住民有志による夏祭り実行委員会による、フェスティバル形態の夏祭りの企画は好評を得ているが、進行において、降雨を懸念して花火を、風が強まる中強行し、幸い問題なく終了したが、委員長による中止の判断などの指揮系統がないことが大いなる反省点である。</p> <p>また、南校舎南側テラスに簡易ステージを設けたが、タイル床の老朽化で凹凸多く、ここが整備できることが望ましい。</p> <p>第49回夏祭りは、久しぶりの開催で人出が多く、それと共にゴミが増加した。第45回と同様にグラウンド内にゴミ分別収集箇所を設置して、分別と後処理を良好にしたが、今回は大量であったため、さらにゴミの減量方法を検討する必要がある。</p>			<p>子ども神輿やお祭りの開催等、地域の活性化に寄与する各種イベントの実施をしているものと考え、今後も、熱中症やその他安全対策に努めながらイベント実施を進めていただきたい。</p>	<p>シティプロモーション課 自治振興費</p>
--------------------	------------	------------------	--	--	--	---	---	--	--	--	------------------------------

<p>地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業</p>	<p>2,000</p>	<p>建物借上料 500 補助金 1,500</p>	<p>地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点を運営を行う。</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。</p> <p>平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きこピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。</p> <p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の張り替えが進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。</p> <p>平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。西公園事務所は、伏尾台地域に入ってすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示されてストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となり、直ちに撤去した。</p> <p>平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催をコミプラで行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。</p> <p>令和2年度は、実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は1,155名であり、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。</p> <p>一方、コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額な交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めなどで何とかしのぐことができた。</p> <p>令和3年は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は約750名で微増であったが、プラザ全体では6,234名と大幅に増加した。</p> <p>らくらく送迎サービスと共におでかけサポートグリスロの実証実験の拠点としてコミプラを活用できた。</p>	<p>協議会事務所を活動拠点としこれを運営するため、建物の整備を行い、活動に伴う水道代・電気代を支払った。また、PRを行うホームページ更新維持のためインターネット回線を維持し、活動の事務を行うためのコピーや通信事務を行った。西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。</p> <p>また、コミプラでは、伏尾台防災防犯委員会や各自治会の事務や打ち合わせ、会議などもコミプラが利用されている。よって、新型コロナウイルス感染症の第5類に移行後も、引き続き自動体温計とアルコール消毒液を設置して、安全第一で運営を行った。</p> <p>さらに、月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。</p> <p>西公園事務所は、コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。</p>	<p>コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、R5年4月1日からR6年3月31日までの実績で、5,208名(R3 4,500名、R4 6,234名(含グリスロ実証実験)の利用を頂いた。減少理由は、高齢者のコロナ禍自粛が常態化したものと推定される。また、昨年度は、グリスロ実証実験と山びこフェスタの開催、他のイベントなど、土、日曜日の稼働が利用増に影響しているものと推測している。</p> <p>来訪者のうち、子育て支援ルームを主目的とした利用者は、約940名(R4 約750名新型コロナウイルス感染症拡大防止の利用制限あり)であった。支援ルームの利用形態改善のため5か月閉鎖にも関わらず利用者は増加した。</p>	<p>コミプラのフリーサロンの利用者数は、コロナ禍で減少したが、これが回復し増加し、キオスク端末の利用も順次増加し、トイレのみの利用も多くなっており、換気と消毒を定期的に行う必要がある。日に数度のトイレ掃除を行う必要がある。</p> <p>コミプラホールでは、ほそごう学園生の利用が高齢者の利用を上回る傾向にあり、それに伴い床が靴底の砂で損傷することが多くなり、ワックスでは対応が困難になり始めた。</p> <p>子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。しかし、伏尾台住民以外の利用が増えている。</p> <p>一方、子育て支援ルームのファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていないので、利用促進方法を考えていきたい。</p> <p>また、はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子育てたちが、水遊びで利用できるようにしたところ、多くの利用をいただいたので、コミプラ前の公園を借りて、水遊び場の開設を検討したい。</p> <p>プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、コミプラには、建築協定連合委員会の事務局も配置しており、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p> <p>コミプラの留守番役のスタッフ、現在10名(掃除スタッフ兼務2名)でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くない。</p>		<p>コロナ禍前の利用者数に戻り、コミュニティ拠点として地域のつながりに寄与しているものと評価。利用者の増加に伴い、館内清掃などの負担の増加も見込まれるため引き続き人員体制の強化が課題であると認識。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
----------------------------	--------------	--------------------------------	---	---	--	--	---	--	---	----------------------------

<p>コミュニティサロン設置事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。 宿題カフェ会場として利用されている。夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 高齢者の居場所つくり意見会の会場として利用した。 山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 また、伏尾台送迎サービスが国交省の日本版MaaS実証実験の中に組み入れられて令和2年12月～令和3年2月に実施され、実験拠点として利用された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能しており、R2.12-R3.2の国交省の日本版MaaS実証実験に続いて、R4.10-12に、トヨタグループの協力のもと、お出かけサポートグリスロの定時定路線の送迎サービス実証実験の送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能した。</p>	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、ほそごう学園生の宿題をグループで行う生徒、試験前の高校生グループ、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 サロンは、らくらく送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能している。もちろん、らくらく送迎の情報提供、登録受付場所としても機能している。 また、池田市の総合窓口の臨時会場として、マイナンバーカードの発行受付会場としても利用された。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で5,208名である。 そのうち子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であった。</p>	<p>利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。</p>	<p>送迎サービス事業と連携しながらサロンとして有効に活用されているものと評価。また、住民主催イベントとの連携などより一層の地域とのつながり強化に期待。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
----------------------	------------	------------------------------	--	--	--	---	---	--	----------------------------

<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>908</p>	<p>建物借上料 500 補助金 408</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供しボランティア活動者に対して情報発信や斡旋を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置したまちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは、5,210名が来訪された。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。 令和4年度は、実績で6,234名であり、子育て支援ルームのみの利用者は750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。</p>	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。 キオスク端末の利用者は毎月順次増加している。 R5年度は、屏風型でキャスター付きの3連ホワイトボードを2組、同様の1枚の独立型を導入して、3月の桜祭りの写真の展示を始めた。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で5,208名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であり、フリーサロンなどへは4,088名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されており、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できている。今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 さらに、屏風型でキャスター付きの3連ホワイトボードを2組サロンに配置して展示会など、同様の1枚の独立型を子育て支援ルームの開催イベント告知などに活用することを進めたい。</p>		<p>地域の情報拠点として認識され、コミュニティのつながりに寄与しているものと評価。さらなる機能強化に期待。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
----------------------	------------	------------------------------	---	---	--	--	--	--	--	----------------------------

<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>780</p>	<p>建物借上料 500 補助金 280</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。</p> <p>平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。</p> <p>平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p> <p>平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であった。</p> <p>平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。</p> <p>令和2年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。</p> <p>令和3年度は、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p> <p>令和4年度は、実績で6,234名であり、子育て支援ルームのみの利用者は約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。</p>	<p>子育て支援ルーム登録会員数は、未就園児が成長して幼稚園児となる家庭が多くなるとともに減少しているが、延べ940名の利用があった。</p> <p>夏休みには、兄弟姉妹が揃うため、未就園児以下を対象とするルームの利用は減少するため、親子ランドと称して、旧伏小の教室を利用して水遊びができるよう、年齢制限を外して開催したところ、7回開催で160名の利用があった。</p>	<p>協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。</p> <p>よって、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。</p> <p>なお、令和3、4年度に、感染予防に対する意識が少ない母親が多く、清掃も後片付けも利用者がある程度行うことをお願いするも、綺麗で便利な施設があれば利用するが、掃除や片付けまではしたくないと明言する母親が多く、ルームが住民の管理下にあり、一人のボランティアの負担が大きいことが理解できず、市の施設だから自分たちは掃除はしないという意識がとて強いことに驚いた。</p> <p>そこで、使用形態を改善するためと称して、ルームの清掃や配置換えを行う5か月間、使用制限を行ない、利用者との話し合いを行い、ある程度の管理側と利用者側の理解が進み、結果、年間の利用者数の増加に繋がった。</p>	<p>子育て支援ルームの使用に関する規則、感染症予防措置、清掃も後片付けも利用者が一定程度行うことを理解してもらう努力を続けていく必要がある。</p> <p>子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。しかし、伏尾台住民以外の利用が増えている。一方、子育て支援ルームのファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていないので、利用促進方法を考えていきたい。</p> <p>また、はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子供たちが、水遊びで利用できるようにしたところ、多くの利用をいただいたので、コミプラ前の公園を借りて、水遊び場の開設を検討したい。</p>		<p>母子交流の場として地域に定着しているものと認識。運営者・利用者間で、本事業の趣旨の共通認識と相互理解を図り、子どもにとって安全・安心な環境を整備するとともに、地域で子どもを育む風土醸成の実現を期待。</p>	<p>コミュニティ推進課／子育て支援課 自治振興費</p>
<p>AED管理事業</p>	<p>10</p>	<p>消耗品費 10</p>	<p>地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。</p>	<p>阪急バス庫車事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。平成29年度は伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、設置から7年を経過したAED装置本体を交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。</p> <p>伏尾台センター ミニコープ内に設置したAEDにおいて、パッドを交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。また、定期的に設置状態の確認を行うことが必要であり、これを実施している。</p> <p>阪急バス事務所の場合はこの場所まで取りに行くことより救急車を呼ぶ方が効率的であると想定できるため、同事務所のAED本体の交換時期が到来した場合、その設置を継続しないことを確認し、R1年度で撤去された。</p> <p>R4年度、コープ店舗側がAEDを配備することになり、設置をお願いしていたAEDは、旧伏尾台小学校の体育館入口に配備した。</p>	<p>旧伏尾台小学校の体育館入口にある控室は、ほそごう学園のスクールバス乗務員の控室となっており、体育館入口は、早朝から夕刻まで開場されている。</p> <p>R5年度は、パッドを交換しえ、引き続き使用可能な状態を維持した。</p>	<p>ほそごう学園がスクールバスを運行する日、午前7時から午後18時まで、体育館入口内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。</p> <p>また、体育館を借りて使用するスポーツ団体が、使用のために開場する場合も同様である。</p> <p>旧伏尾台小学校は、フリースクール、デイサービス、介護士養成生専門学校が利用する施設であり、AEDが使用可能な状態で常備されることに意義がある。</p>	<p>設置しているAEDは、令和6年5月末で耐用年数の7年を迎えて、撤去されます。</p> <p>ふしおだいは、消防署の細河文書が近いことから、設置場所まで、取りに行くことより救急車を呼ぶ方が効率的であると想定できるため、新たなAED設置は行わない。</p>	<p>消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。地域の施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため耐用年数を迎えるまで引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。</p>	<p>健康増進課 保健衛生総務費</p>	

<p>地域コミュニティ紙等 発行事業</p>	<p>280 補助金 280</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、会員のボランティアで実施し、費用は紙とインク代の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。</p> <p>平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。</p> <p>さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を会員の手配りで実施した。</p> <p>平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青バトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p> <p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p> <p>令和元年11月、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している広報紙第21号を全戸配布した。</p> <p>令和2年3月末、「はぐのさと」オープン記念際のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用を具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している広報紙第22号を全戸配布した。</p> <p>ふしおだい第23号は、令和2年12月に全戸配布され、令和2年1月より開始されている「伏尾台送迎サービス」無料のらくらく送迎の降車風景を表紙にして、国交省のMaaS実証実験が開始されたこと、山びこ寄席と音楽ライブ並びに防災訓練が「はぐのさと」で開催されたことを報告し、コミプラの子育て支援ルームの活用を広報している。</p> <p>ふしおだい第24号は、令和3年3月末に全戸配布され、ほそごう学園の卒業式のために祝登りを設置した後に撮影した学園前風景を表紙にし、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進めた、はぐのさとリサイクルショップの紹介と共に、貸出教室などについて広報し、国交省のMaaS実証実験は終了したが、無料の「伏尾台送迎サービス」は今後も継続して行われることを広報している。</p> <p>令和3年度は、本事業は提案されていないが、ふしおだい第25号を令和4年3月末に全戸配布した。伏尾台の四季の花を表紙にしたもので、コミ協って、何なのですか？Q&A形式で、コミュニティ推進協議会の活動を紹介して、過去の活動これからの活動課題を紹介した。</p> <p>ふしおだい第26号は、令和4年12月末に全戸配布され、8月から12月まで実施されたイベントの写真を表紙にしたもので、第48回</p>	<p>令和5年度は、年3回の発行に変更し、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように、まず、Instagramラムを提供した。</p> <p>ふしおだい第28号は、令和5年9月に全戸配布され、初めて野外で夕刻からの山びこフェスタの様子を表紙にして、夏休み向けの親子ランド、伏尾台の夏祭り用ステージの背景画を子どもたちが描く様子、夏祭り、初めて宿泊行事の避難所設営訓練キャンプの開催を報告している。</p> <p>ふしおだい第29号は、令和6年1月に全戸配布され、11月22日に旧伏小で開催された伏尾台生誕50周年記念事業の様子を表紙にし、手芸教室、人形芸、山びこ寄席、朗読会、総合防災訓練、秋祭り、初めて大盛況の餅つき大会の様子、子ども会も参加した歳末警戒パトロールを報告している。</p> <p>ふしおだい第30号は、令和6年4月に全戸配布され、3月22日のリニューアルオープン後の遊具で遊ぶ子供達の様子を表紙にして、新しい北中央公園の様子とともに子育て支援ルームの利用案内を掲載し、山びこ寄席、折り紙教室の開催を報告し、伏尾台桜まつりで桜マップの作成のための写真募集を広報している。</p>	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、協議会活動の紹介やアンケート回収には効果があったが、相変わらず協議会入会、安全パトロール隊員の応募などの広報に関する効果は見られない。</p> <p>令和5年度は、さらに年3回の広報誌の発行に変更した。また、新規事業の伏尾台地域通信管理事業にて、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報誌とともに活用できるように、Instagram、LINEを提供し、広報誌に導入用のQRコードを記載して利用を促した。</p> <p>一方、平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p> <p>特に、令和3年3月下旬にほそごう学園教職員への地域分権制度と伏尾台地域の活動に関する講義の機会を得た際にはテキストとして活用できた。</p> <p>令和4年、5年度も、ほそごう学園での講師の依頼を受けた際に、学園生へのテキスト、参考資料として活用できた。</p>	<p>コロナ感染症拡大の最中では、集会やイベントの開催が困難となり、広報誌を通じての活動の報告は重要であった。しかし、その後平常化した際、イベントの告知、案内などには、webを介しての情報の受発信の方が、特に若年層には効果的と考えられる。</p> <p>従来の高齢者を含む全世代向けの広報誌を年2回、若年層に興味を持ってもらえる紙面の広報誌を年に3～4回程度発行することを想定し、Instagram、LINEとの連携を想定したコンテンツなど、新たに取り組みを実施していかないと、単に広報誌を発行するだけのマンネリ化が懸念される。</p> <p>また、定期的かつタイムリーな発行ルーチンが守られず、経緯した事が過去にあったことから、年5～6回の発行は、綿密な計画性が重要となる。</p>	<p>表紙に写真を大きく使用しインパクトがある。また内容も簡潔かつ写真やイラストを多数掲載しており読みやすい。InstagramやLINEの活用について、効果的な取り組みを期待する。</p> <p>広報広聴課 自治振興費</p>
----------------------------	--------------------	---	---	--	---	--	--

				<p>イベントの写真を掲載したもので、第40回伏尾台夏祭り、9～11月の3回連続やまびこフェスタ、第41回伏尾台大運動会、総合防災訓練とほそごう秋まつり、特色ある公園づくり住民座談会、子ども会とのコラボの掃除、おでかけサポートグリスロ実証実験を紹介した。</p> <p>ふしおだい第27号は、令和5年4月に全戸配布され、はぐのさと（旧伏尾台小学校）の活用が進んでいることの紹介写真と共に、教室を貸し出しスペースとして紹介している。R5年1～3月のやまびこ寄席の報告を行った。さらに、R5年度の活動予定として、夏休みに親子の居場所として親子ランドを開催する旨紹介し、コミプラに新たな掲示システムを導入することも紹介した。また、協議会のR5年度の実施予定事業を紹介した。</p>							
地域情報発信管理事業	50	補助金	50	<p>協議会の活動状況やイベント情報を地域住民に発信する。</p>	<p>令和5年度は、地域コミュニティ紙発行事業では、年3回の広報誌の発行に変更して、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報誌とともに活用できるように、Instagram、LINEを提供し、広報誌に導入用のQRコードを記載して利用を促した。</p> <p>協議会が行う各種のイベントの開催告知や参加者の募集に、積極的に利用した。</p>	<p>令和5年度にInstagram、LINEにて情報提供したところ、協議会活動に関心を持つ、池田市内外の大学生から見学などの申し込みがあった。</p> <p>音楽落語などの山びこフェスタのポスターを紹介することができた。</p> <p>また、8月5日～6日の避難所設置訓練キャンプの開催告知と参加申込に監視、池田市内複数地域からの問い合わせ申し込みがあった。</p> <p>10月下旬のハロウィンイベントの開催告知と参加申込に監視、地域内からの問い合わせ申し込みがあった。</p> <p>3月下旬の伏尾台桜まつりに関して開催告知を行ったところ、桜の開花が無かったにもかかわらず、多数の集客効果が得られた。</p>	<p>令和6年度は、広報誌発行事業において、従来の高齢者を含む全世代向けの広報誌を年2回、若年層に興味を持ってもらえる紙面の広報誌を年に3～4回程度発行することを想定している。</p> <p>紙面の発行とInstagram、LINEとが連携した形態でコンテンツの内容、情報発信時期などを考慮して、効率の良い情報発信と情報収集を行う必要がある。</p>			<p>あらゆる世代に向けた情報発信についてInstagramやLINEは有効であり、今後も継続してほしい。ただ、発信内容や頻度について、発信側の一方通行にならないように、地域住民の声を取り入れながら運用する必要があると考える。</p>	<p>広報広聴課 自治振興費</p>

<p>防犯防災啓発事業</p>	<p>200 補助金 200</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識を高めるため、体験訓練を行うとともに巡回パトロールを啓発するための用品等を購入する。</p>	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(R1年度1074戸毎年減少)</p> <p>平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。</p> <p>7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。</p> <p>8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。</p> <p>8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。</p> <p>11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。</p> <p>12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。</p> <p>2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。</p> <p>3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。</p> <p>平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。</p> <p>6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。</p> <p>8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。</p> <p>8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。</p> <p>11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。ほそごう学園の複数年が全員参加し、細河の消防団の参加し、旧伏小内の国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加し、地域一帯の防災訓練が実施できた。</p> <p>12月27日、29日、30日の年末特別警戒に延べ105名が参加した。</p> <p>R2年2月以降は、コロナ感染症予防のため、会議などを全て中止した。</p> <p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月9日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替え、R3年3月定例会のみ、年度末会議として開催した。</p> <p>訓練活動は、6月21日、資器材の点検使用訓練に12名参加。11月1日に旧伏尾台小学校職員室で、「密にならない避難所運営訓練」を隊員のみ38名で行い、市が備蓄していた間仕切りテントを借用してこれが有効なことを確認し、補助金で購入を予定していた備蓄品として、間仕切りテントを購入した。</p> <p>住民とほそごう学園生徒との総合防災訓練は、3密を避けるために中止したが、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋は、予定どおり補助金にて購入した。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から50分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延55人で実施した。</p> <p>令和3年度は、事業提案を行っておらず、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月8日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替えた。</p> <p>訓練活動は、6月20日の資機材の点検使用訓練は中止した。10月31日に旧伏尾台小学校職員室で、「密にならない避難所運営訓練」を隊員のみ40名で行い、R2年度の補助金で購入した間仕切りテントの使用訓練を行った。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から45分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延45人で</p>	<p>防災防犯委員会の会議、防犯教室の開催は、池田市防犯委員会と連携のもと実施された。</p> <p>以下、協議会との連携で補助金を使用する事業を実施した。</p> <p>8月5日～6日に開催した避難所設営訓練キャンプは、5日夕刻に委員会とキャンプ参加の親子と併せて50名がマイタイムラインの学習後、避難所の設営を行い、親子14名が旧伏小職員室内に設営した間仕切りテント内で宿泊体験した。</p> <p>11月5日、ほそごう学園にて、4年生と8年生全員の参加を得て、伏尾台自治会、細河消防分団、危機管理課の協力を得て防災総合訓練を行い、炊き出し訓練の成果の豚汁提供数で、350名の参加者を得た。</p> <p>12月27日に歳末警戒発隊式に15人、12月29日、30日の年末特別警戒には、子ども会から子どもと保護者の参加があり、延べ110名が参加した。パトロールに参加した子どもたちは、大声で火の用心、戸締まり要人を連呼し、終了後の参加賞に大喜びであった。</p>	<p>令和5年度の活動は、避難所設営訓練キャンプ、総合防災訓練、年末警戒パトロール、防犯教室の開催のみであった。</p> <p>避難所設営訓練キャンプでは、購入備蓄した間仕切りテント、簡易ベッドが実際に使用され、子どもたちには良い思い出ができた。</p> <p>総合防災訓練では、昨年に続けて、間仕切りテント、簡易ベッドの避難所設営訓練、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を使用した、炊き出し訓練を行うことができ、今後継続して有効活用できる。</p> <p>年末警戒パトロールは、地域の安全を高齢者と共に考え体験できるため、昨年より大幅増の子ども会の参加が得られ、好評であり、今後さらに拡大して継続開催できる。</p>	<p>コロナ禍が続いた結果、備蓄資機材の使用訓練や見学会などの要望に応えられない状況が続き、災害時の安否声かけができる体制の確立のために不可欠な近所づきあいを深める活動ができない現状をどう解決するかが問われる。</p> <p>しかし、ほそごう学園、子ども会との連携により活動を通して世代交流を図る事ができそうである。</p> <p>活動を担ってもらう伏尾台防災・防犯委員会においても、高齢化で除隊する委員が増加し、R4年度、90名から一気に70名台に激減し、さらに60名までに減少したことが大きな課題となっている。</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識の向上に繋がる活動の実施を評価するとともに、購入備蓄品の有効活用及び更なる地域住民を巻き込んだ活動に期待</p>	<p>危機管理課 自治振興費</p>
-----------------	--------------------	---	--	--	---	---	---	------------------------

				<p>実施した。</p> <p>令和4年度は、コロナ禍であるが、総会(5月14日)の開催を行った。全ての定例会議を書面通知に替えた。特に、R5年3月定例会を中止して、R5年4月1日に年度末会議、防犯教室を開催し、30人の参加があった。</p> <p>訓練活動は、6月19日、資機材の点検使用訓練に20名参加。11月6日にほそごう学園で総合防災訓練を行なった。4年生、8年生をはじめ住民ら450人の参加を得た。</p> <p>4,8年生には特にマイタイムラインの作成訓練を受けてもらい、R2年度購入の間仕切りテント、4年度の簡易ベッドを使用して、避難所設営訓練を実施した。</p> <p>さらに、R2年度購入の炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を用い、約500人分の炊き出し訓練が実施できた</p> <p>啓発活動として、12月27日に歳末警戒発隊式に20人、29日には子供会の参加があり、50名でパトロールを行い、30日は30名で、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して実施した。</p>					
多世代交流支援事業	180	補助金	180	<p>幼児から高齢者までの地域住民が多世代交流の行事を行う事業提案を行ってきたが、コロナ禍と子ども会側の日程調整が叶わずに、計画が実施できていなかった。</p> <p>また、協議会側のスタッフ不足で計画立案に至らなかった。</p>	<p>幼児から高齢者までの地域住民の多世代交流を行うため、じいじばあばと一緒に、鑑賞体験、料理体験、茶会体験を行った。なお、予定した「イチゴ狩り体験」は、池田市内で予約が叶わないので中止した。</p> <p>まず、補助金は使用しないが、9月30日に人形劇団せっぽく座の特別公演を開催した。座としての鑑賞のため、30名限定で行ったが、参加された高齢者から幼児までが同時に笑う楽しい人形劇であった。</p> <p>料理体験として、餅つきぜんざい大会を開催したところ、大盛況で人の出入りが多く300名超えと思えるが、少なくとも250名の来場者を確認した。餅つき体験が好評で大勢の子どもの笑顔と引き換えに、スタッフの高齢者と子ども会育成者らは疲労困憊でした。</p> <p>茶会体験として、桜鑑賞する伏尾台桜まつりを、3月24日、31日、4月6日を予定したが、開花が遅く、24日は桜無しで中止、31日は桜の開花はわずかであったが、1丁目第2公園と西公園に70名以上の参加者があった。ゲームなどで多世代の交流が行えて、25℃超えて大いに汗をかきました。</p>	<p>3回の開催で400名を超える参加が得られ、幼児から高齢者までの多世代交流を図ることができた。</p> <p>人形劇鑑賞、餅つき体験とぜんざい試食、地域のロケーションを利用した桜まつりと、初めての企画内容であったが、費用対効果は絶大で、内容と工夫次第で多くの方に楽しんでもらえることがわかった。</p>	<p>多世代の交流イベントを企画立案しても、実践するスタッフ不足で中途半端な内容に陥り気味となるため、参加希望者と一緒に行えるような新たな企画を考えていきたい。</p>	<p>多世代交流が図られるイベントとして有意義なものであると感じる。今後も課題に記載いただいたいる、参加希望者と共に新たな企画立案などを実施いただきたい。</p>	<p>シティプロモーション課 自治振興費</p>
伏尾台地区活性化事業	280	補助金	280	<p>毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおたい山びこフェスタ」と認知され定着している。</p> <p>平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。</p> <p>平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。</p> <p>平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。</p> <p>平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。これまで31回の山びこフェスタを開催した。</p> <p>令和2年3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、令和2年前期も引き続き、イベント開催を中止した。</p> <p>10月25日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室にて、第32回山びこ寄席 二人会を開催した。11月2日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団(演奏者7人)による第33回音楽ライブを行った。</p> <p>令和3年度は、事業提案限度額削減のため、事業提案できなかった。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、換気を行うコミブラ入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取り50人定員とし、マスク着用で着席していただく形で、山びこフェスタを、音楽3回、落語3回、合計6回開催した。</p>	<p>R5年度は、7、11、2月の3回の落語、1月に朗読劇、計5回の山びこフェスタを、コミブラにて開催した。9月に音楽会を、旧伏小南校舎前の屋外で開催した。</p> <p>コミブラでの開催は、密を避けるため、定員を50名として広報し、その入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行ってもらった。</p> <p>7月1日(土)落語の会 林家染座 月亭秀都</p> <p>9月16日(土)歌とトーク リピート山中</p> <p>11月25日(土)落語の会 桂三若 桂三語</p> <p>1月27日(土)朗読劇 坂口修一</p> <p>2月17日(土)落語の会 桂あさ吉 桂福留</p>	<p>広報誌(vol.28～30)を参照のとおり、落語並びに朗読劇は、それぞれ盛会であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。</p> <p>特に、音楽会は初の夕刻からの屋外開催で、たこ焼き、かき氷の屋台と飲料販売もあり、3時間の開催で述べ250名の参加を得た。</p>	<p>例年のとおり、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが、応募が全くなかった。</p> <p>令和2年頃までは、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多かった。</p> <p>R4年度は、コロナ感染症対策のため、先着50名として掲示板に掲載するのみの広報を行なったが、毎回定員の50名に達した。しかし、R5年度の落語会は全て定員に満たないため、出演者の選定、開催日時、会場の変更などを考えなければならない。</p> <p>一方で、地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増加していることが確認できたので、落語、音楽などのジャンルにとらわれない内容や開催方法などを検討する必要がある。</p>	<p>コミブラでの開催については新型コロナウイルス対策を徹底していただけた。</p> <p>音楽会については例年と異なり夕方からの屋外開催にするなどの工夫により、多くの方にお越しいただけた。</p> <p>次回からアンケート結果等の添付や各演目の参加者人数報告についてもお願いしたい。</p>	<p>人権・文化国際課 自治振興費</p>

<p>高齢者の居場所づくり事業</p>	<p>60 補助金 60</p>	<p>高齢者同士と一緒に夕食を楽しめる環境を提供して、高齢者らの交流を促進し、町全体のコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザにおいて、住民講師を招いた詩の朗読会、俳句会、川柳会、花、茶会など、毎回テーマを決めて参加者を募集する「居場所」づくりを行う予定で企画を進めたが、スタッフ不足で立案に至らず、実施が叶わなかった。</p>	<p>9月27日、コミプラにて手芸教室を開催した。8名の参加申し込みがあり、小さなお盆に2羽の大小のフクロウを布などで作成して飾り付けた作品を完成した。 11月29日、コミプラにて詩の朗読会を開催した。最初に参加者全員に、口の体操と称して発声練習を行い、場が和んだところで、講師が詩を朗読して聞かせた。 3月13日、コミプラにて折り紙教室を開催した。折り紙でお雛様を作成するのであるが、意外やみなさん手こずり、2時間以上にわたり、持久戦の様相で肩を凝らせながら楽しんでいた。</p>	<p>手芸教室8名、詩の朗読会14名、折り紙教室8名の参加を得て好評であった。</p>	<p>居場所づくりに参加された方々には、好評を博しかつ費用対効果も優れてはいる。しかし、スタッフ不足は如何ともし難く、今後の立案実施には困難が予想される。 そこで、高齢者の居場所づくり事業を、若年層と共に実施する多世代交流事業に組み入れた方が、効率よくかつ確実に実施することができると考えた。 よって、令和6年度事業提案は行わず、本事業は終了としました。</p>		<p>多様な活動を通じて高齢者の交流を促進し、創作や会話を楽しむ場が地域のコミュニケーション向上に貢献している。</p>	<p>高齢・福祉総務課 自治振興費</p>
<p>伏尾台創生会議2020宣言広報事業</p>	<p>30 補助金 30</p>	<p>伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広報するため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。</p>	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。 この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付して下さることになり、平成28年11月末に設備が完成した。 市への寄付設備の贈呈が行われたが、H28年11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。</p>	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。 また、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を住民の手で、点検することができた。しかし、退色が進み、汚れが目立つようになっている。</p>	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往來者に広報できている。 1丁目に居住し、出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。同様の意見を複数聞いた。 また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。</p>	<p>新吉田橋のライトアップにより、伏尾台地区のにぎわい創出に寄与している。</p>	<p>土木管理課 自治振興費</p>	
<p>伏尾台地域送迎サービス事業</p>	<p>711 補助金 711</p>	<p>主に自宅とバス停間の送迎を行い、交通弱者の地域内への積極的な外出及び帰宅を支援し、地域内交流の増進を図る。</p>	<p>伏尾台の住民、特に自家用車などを持たない、高齢や病気で運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対する救済手段が全くなかった。 そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。 送迎車両の運転を無償ボランティアで行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り組むことで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。 コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けられるようになった。 送迎車両は、リース契約を行う軽自動車を利用する。送迎ドライバーは、予め事務局に乗務可能な日時を登録しておき、利用者の申込日時とのマッチングを図り、送迎を行った。 一方で、本事業の今後の継続を考えて、国交省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部局に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、選択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。 MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。送迎申込回数は、本年度内で520回を超え、送迎人数は800名を超えた。 令和3年7月末時点で、登録者数は200名を超え、送迎申込回数は800回を超え、送迎人数は1070名を超えた。 令和4年度は、キャンセルを含め321件の申し込みがあり、1086名の送迎を行った。 令和4年1月にトヨタグループより、7人乗り電動車(GSM)で定時定路線走行を行う無予約型の送迎サービス実証実験の申し入れがあり、前日までの予約型「らくらく送迎」を行いながらの同時並行で、「おでかけサポートグリスロ」として、10月末から12月下旬まで実証実験を行なった。 伏尾台1丁目と2丁目の3コースを走行する「おでかけサポートグリスロ」実証実験では、新規登録者約150名、395名の利用があった。</p>	<p>令和5年度は、129件の予約、465名の送迎を行い、実働で日に2.8人の送迎となった。 利用者の大幅減少の原因は、令和5年1月頃から、電話予約が可能で定期的に利用されていたヘビーユーザーの多くが、一斉に入院あるいは施設に入られるなどで、利用予約がなくなったことによる。 利用のためのユーザー登録は増えてはいるが、当時予約の利用が望まれるが、ドライバー不足で対応が不可能であるため、新規登録者の前日までの利用申込は少ない。 一方、コープの買い物婦りの人、数井医院からの婦りの人が、コミプラを訪れて、送ってほしいと願い出られることが増えている。予約についてお尋ねすると、忘れていた、面倒だという返答が帰ってくる状況で、高齢になる程、その傾向が強いようである。 また、予約できても、急遽予定を変更されて、当日のキャンセルが増えている。 予約なし「おでかけサポートグリスロ」の経験から、地域住民が望んでいるのは、デマンド交通であると言える。</p>	<p>令和4年度は、321件の予約、1068名の送迎を行い、送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。 「おでかけサポートグリスロ」実証実験の開始前後に高齢者を対象にアンケート調査が、日本福祉大学の主導のもと実施され、送迎サービスの利用が健康寿命の延命に効果があることが判明した。 予約型「らくらく送迎」で1068名、予約なし「おでかけサポートグリスロ」で395名の利用者は、ほぼ重複することなく、個別の需要であることが判明した。 ところが、令和5年に入ると、電話予約が可能で定期的に利用されていたヘビーユーザーの多くの予約がなくなり、令和4年度の半分以下の利用者数となった。</p>	<p>伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、ドライバーと利用者ともに、地域の高齢化率が年々上昇する中で、辛うじて実施できている。 なんとか協議会で事業を維持している間に、市が事業主体として予算化し、地域の団体あるいはタクシー会社に事業委託する形態の事業、デマンド交通、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。 と言いつつ続けてきましたが、令和6年度末で現リース車両が使用できなくなるのを機に、現状の無償無料の「伏尾台らくらく送迎」事業は終了します。 伏尾台のような坂の街、高齢化が進む町では、有償有料のデマンド交通が不可欠であると考えられます。 現在では、百以上の自治体で社会実装されている種々のデマンド交通システムの中から、伏尾台に合うシステムの構築は可能であると考えます。</p>	<p>新たなボランティアドライバーの確保や新規ユーザーの獲得などが課題。 事業を継続する場合は、見直しが行われた道路運送法の許可等を要しない範囲内での見直し・検討が必要。</p>	<p>交通道路課 自治振興費</p>	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和5年度執行）

ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	補助金	30	<p>地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。</p>	<p>地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う運動を支援していた。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要があった。</p>	<p>必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もビオラ、キンセンカ、アリサムのプラグ苗を約2400株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。育成した苗は、令和5年12月11日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホームなど17施設に配り、また、地域内の歩道の花壇に植えるなど、やさしい環境作りを行うことができた。</p>	<p>ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。</p>			<p>ほそごう学園と地域住民、そして細河地域との連携強化により、地域美化の意識が進んでいくことが期待できる。</p>	<p>みどり農政課 自治振興費</p>
計	6,968			事業提案限度額 9,417千円 次年度繰越金額 2,449千円							
合 計	73,893			事業提案限度額 121,173千円 次年度繰越金額 47,280千円							